

KASUGA LIFE

Lorem ipsum

dolor sit amet, consectetur

adipiscing elit. Maecenas quis erat accumsan

turpis hendrerit sollicitudin a eget felis. Morbi in urna sit amet

orci laoreet pulvinar. Quisque vestibulum justo et ligula ornare eget vehicula

neque laoreet. Cras vehicula rhoncus nunc quis congue. Ut posuere faucibus sapien sed

aliquet. Maecenas eget erat tortor. Donec viverra interdum lorem, at consequat purus eleifend a. Praesent

accumsan lobortis lectus sed interdum. Donec vel metus lectus, vitae interdum augue

Morbi velit justo, fermentum et ultrices sit amet, tincidunt quis lorem. Aliquam in purus urna. Cum sociis natoque penatibus et magnis dis parturient montes, nascetur ridiculus mus. Cras conismendum, nisi sit amet elit imperdiet ut consetetur erat egestas. Phasellus sed orci enim, lobortis ultricies nunc. Et velit. Duis nec diam in nisi molestie pro. Um vel sagittis. Maecenas tempus varius tortor et vestibulum. Maecenas blandi congue lorem, non eleifend massa pellentesque congue tortor, eu volutpat nulla fermentum et. Vivamus dapibus scario ut lacinia iaculis, nisi felis iaculis ipsum, nec ultrices lacus massa sit amet

Mauris ornare leo non tellus tristique a iaculis neque interdum. Suspendisse eget malesuada dui. Curabitur condimentum libero, eget ultrices est posuere vel. Donec convallis lacus. Curabitur nisi enim, fringilla at commodo vitae, faucibus congue. Phasellus ornatis leo posuere quis. Fusce at enim eu morbi aliquam non et nisi. Aenean non diam ipsum. Cras congue. Mauris mattis urna non leo tristique ad magna posuere. Integer tristique, tellus eget tempus

Fusce id felis ante, lac dapibus velit. Curabitur malesuada diam eget elit posuere pharetra. Sed id ante ipsum, id facilisis dui. Pellentesque amet, feugiat lobortis diam. Donec odio

Sed id ante ipsum, id facilisis dui. Pellentesque condimentum vel, iaculis in leo. Sed nec mattis sit amet. Phasellus eu ante vel dui auctor tincidunt eget in sapien. Phasellus pellentesque et enim.

Integer bibendum elit in enim ultrices a ultricies sit amet sit amet lacus. Fusce porttitor congue mi sed diam ullamcorper eget fermentum facilisis eget erat. Cras sagittis tellus sit amet dolor. Cras sit amet nisi ac ligula luctus congue

Ut malesuada odio sit amet nisi bibendum aliquam. Quis ipsum, sed pharetra lorem. Etiam ut nunc nisi. Nam eget orci lectus mollis pharetra. Vestibulum non ligula in sapien aliquam aliquet. Integer placerat eleifend sodales. Nunc justo suscipit a faucibus erat porttitor. Sed et ornare ante. Vivamus eget mauris sed risus pharetra egestas. Cras felis leo, laoreet pellentesque quis est.

Fusce non mi eu diam ullamcorper blandit quis in nisi. Mauris sit amet odio lacus. Integer sem quam, fringilla sit amet tempus in, placerat vitae sapien. Nullam dignissim, lorem a consequat eleifend, massa ante lobortis purus, ut eleifend metus diam eu ipsum. Phasellus iaculis

ligula

kasuga life - Vol. mid summer 2012

! Web 版に関する注意

この冊子「かすがらいふ」は2012年7月31日の大学説明会にて配布される予定の資料ですが、当日の資料不足対策として、またオープンキャンパスに来ることの出来ない受験生のため、Web公開を行なっているものです。

基本的に配布した冊子と内容は同じですが、一部の個人情報に関して修正を行なっています。

また、本冊子の著作権は「かすがらいふ編集委員会」にあり、無断転載・再配布を禁止します。

はじめに

はじめまして。この冊子を手にとりいただき、ありがとうございます。

この冊子「かすがらいふ」は、春日キャンパスに通う情報メディア創成学類と知識情報・図書館学類の学生によって作られた、受験生のみなさんのための情報誌です。春日キャンパスに通う学生の視点から、私たちの大学生活や大学の講義、受験までの道のりなどをご紹介します。

学生の発行誌という性質上、「かすがらいふ」には学生の個人的な感想がたくさんふくまれています。なんでもかんでも鵜呑みにするのはいけません。

けれどそんな視点が、みなさんの役に立つこともあるでしょう。

さあ、ページをめくってみてください。そこにはきっとあなたの知りたい情報が転がっているはずです。

そしてぜひ、この冊子がくたくたになるまでご愛読ください。

目次

学類紹介	3
情報メディア創成学類	3
知識情報・図書館学類	4
講義紹介	6
全学類共通科目	6
専門科目	10
知識情報・図書館学類の専攻	14
合格体験記	16
情報メディア創成学類編	17
知識情報・図書館学類編	24
生活体験記	36
平砂宿舎	37
春日宿舎	39
アパート	42
自宅通学	45
筑波大学のサークル	48
アルバイトについて	49
かすがトーク	50
筑波大学の1年間	55
学費、奨学金、宿舎費	56
筑波大学附属図書館	57
春日エリアの施設	58
用語集	60

情報メディア創成学類

Media Arts, Science and Technology

■ 「情報メディア創成学類を目指す皆さんへ」

筑波大学 情報学群 情報メディア創成学類長
山本 幹雄

受験生の皆さんの世代は、子どもの頃から大規模な Web と携帯デバイスが存在し、日常的に手元から世界につながっている環境に育った最初の世代として歴史に記憶されるでしょう。一般に、あらゆる革新的技術は、社会的な影響力を普遍化するために数十年を必要とします。蒸気機関、電気、自動車、テレビ、電子計算機などすべてそうです。Web は約 20 年前に誕生しましたが、皆さんの世代と共に成長し、現在では想像を絶するほどの膨大な情報やデジタルコンテンツが日々新しい方法で Web 上を流通しています。携帯デバイスの普及により何時でも何処でも皆さんはそれらの情報を消費し、自らも発信し、コミュニケーションすることが日常となっています。今まさに、20 世紀末に生まれた革新的情報通信技術が社会への影響力を普遍化する現場に我々は立ち会っているのだと思います。

この新しい情報化社会を支え、リードする技術者を養成するために設立されたのが情報メディア創成学類です。最近では、世界中のあらゆる才能がグローバルに発掘され、活躍できるすばらしい環境が整うとともに、膨大な数の才能が世界中で競争するたいへん厳しいとも言える状況になっています。また、情報通信技術の恩恵により、個人の力を何千倍・何

万倍にも増幅して発信することが可能な時代です。これからは、他の技術者が持っていない先を見据えた技術や知識、ユニークな才能、あるいは個性が尊重され・試されることでしょう。本学類では、従来の情報通信技術に関する徹底した教育に加え、情報化社会で流通する情報（すなわちコンテンツ）を生み出し・活用し、蓄積・流通させるための技術を学びます。これらは、今生まれつつある新しい情報化社会のど真ん中で必要な技術です。また、実際の社会に役立つシステムやコンテンツを自ら創造／設計できる才能を重要視しており、企画力などの総合力を養成するユニークなカリキュラムを提供しています。さらに、広い範囲のバックグラウンドを持つ約 30 名の専任教員とのふれあいは皆さんの個性をきっと磨くことでしょう。

情報メディア創成学類は 2011 年 3 月に初めて卒業生を送り出したばかりの新しい学類です。学類自体も現在成長中であり、小さな頃から空気のように情報通信技術を使いこなしてきた皆さんの影響を受けてこれから大きく育つ学類だと考えています。我々と共に学び、考え、悩み、新しい社会を支える技術を生み出したいという皆さんのチャレンジを心よりお待ちしております。

知識情報・図書館学類

Knowledge and Library Sciences

■ 「ようこそ、大学へ」

筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類長

長谷川 秀彦

昔々、小学生の頃、中学に通っているおにいさんおねえさんはすごいんだと思ったことはありませんか？ 中学生の頃、高校生は難しいことをいっぱい知っているんだと思っていませんか？ そして、高校生のみなさんは、高校ですごいことを学んでいるという実感よりも、なんでこんな難しいことをやらなきゃいけないんだと思っていませんか？

それでいながら、今日は大学説明会に来てくださったわけです。なにか未知のすばらしいものに出会えると期待しているのでしょうか？ あるいは怖いものみたさでしょうか？ それとも、「大学生だってなんとかこなせるようになる」と思っているのでしょうか？

どれが正解なのか、私にはわかりません。少なくとも、高校生とか、大学生の頃、私はそんな難しいことを考えはしませんでした。ついでを言えば、大学4年生の頃には、高校生の頃 はすごいなと思っていた高校教師もなんとかできるのではないかなと思うようになっていました。実際、ある条件を満足して大学を卒業すれば、教師をやってよいという資格が与えられます。新米とベテランの違いは、資格ではなく、その後の蓄積ということで、きっと「できる」と「うまくできる」には雲泥の差があるのでしょうか。いっぽう、高校の頃によくわからずに苦しんでいたものも、飽きずにつきあっていけばなんとなく身についてくる、あるいは親しみがわいてくるものです。ときとして「わかる」という体験があるのかもしれ

ません。すごい大学教授もいます。しかし、私のような凡人でも飽きずに同じことを長くやっていればそれなりに身についてくることはあるようです。

さて、本題に入りましょう。大学での授業は、高校の次の段階としてそれなりにうまく構成されています。しかし、高校のときのように、これだけが正解であるといった単純なことは少なく、この見方ではこう、立場を変えればこう、でもこの考え方は明らかに違うといった曖昧模糊とした正解が増えてきます。場合によって、教師も正解は知らなくて、「君たち、考えてみよう」と言っているだけなのかもしれません。このような考える営みによって人間社会は発展してきました。そこでは、考える営みから生み出された「知識」が多くの人に共有され、時間的・空間的に広がってゆきました。学問というのは、この知識を広げ、蓄積し、後世に残すということが大きな使命だったといえます。学問には、物理学もあれば、生物学もあるし、哲学、考古学など、星のごとく分化した専門領域があります。知識情報学、あるいは昔の図書館は、これらすべての考える人たちをサポートするちょっと変わったものです。もちろん、それ自身を深く探求するという側面もありますが、いろいろな専門領域で使われる資料・データ・情報・知識などをどうすれば有効活用できるかを実践するという実学の側面もあります。そもそも、すべての専門領域に関わっているのだから、理系と

知識共有のための仕組み



支える



システム構築
運用者等



図書館

支える



図書館員等

知識と情報の
生成と記録



知識と情報の
獲得・活用



か文系にこだわるのはナンセンスでしょう。文系や理系というのは、ある観点による単なるグループ分けに過ぎず、そんなものが森羅万象に通じるわけではありません。

ここで、これ以上「こんな分野です」と説明するのはやめておきます。いろいろな人の話を聞いて、パンフレットを読んで、自分なりのイメージをふくらませてください。興味を持って、われわれの学類を受験してくだされば嬉しいのですが、われわれの学類を知っておいてくださるだけでも幸いです。ものごと、人生、すべてを前もって計画し、準備できるわけではありません。いつか、あなたたちがわれわれ“知識”を必要としたとき、そういえば思い出してください。本を読み、深く考え、そして人と議論をして考えを深めようと思ったときでも遅くはありません。大学1年生、3年次編入生、研究生や大学院生として学び始められるようになっています。

大学生活がすべてではありませんが、大学時代にしかできなかったことがあると人は言います。過去を振り返らないと言えないセリフなので、今のみなさんにとってそれが何になるかはわかりません。そして、つくばは経験をつむのによい場所だと思います。

知識情報学に興味を持ったあなた、このつくばでちょっと学んでみませんか？

われわれは、新しい時代を担うみなさんを常に心から歓迎いたします。

全学類共通科目

講義紹介

大学の授業ってどんなもの？

春日の学生はどんなこと勉強するのかな？

そんなあなたの疑問に少しではありますがお答えします！

※今回の紹介はあくまで執筆者の受講した講義の印象ですので、参考程度にお願いします。

共通科目

英語

情報学群の3学類（情報科学類、情報メディア創成学類、知識情報・図書館学類）合同で講義があります。4月に行われるプレースメントテスト（クラス分けテスト / マーク式）でA1～C2クラスに分かれます。英語がすぐできる人はSクラスなんていうクラスにいきます。どのクラスも予習・復習が大変なものは大変だし、楽しいものは楽しいみたいです。正直、先生と使用する教材次第です（今年は教材に『ローマの休日』を使っているクラスもあります）。これは講義を受けてみないと何とも言いえないところではあります。

講義は週に3回あり、読み書きや聞き取り、会話もします。高校で身に付けた英語の能力が衰えてさえいなければ、どうにかなります、多分。でも結構衰えているものなので、入学試験合格後も少し勉強しておいたほうがいいと思います。特にAC、推薦合格者は、合格してから入学までの間が長いので、勉強しておかないと、苦しむことになるかもしれません。

体育

え、大学って体育あるの？—あります。1年生と2年生の必修科目です。学期ごとに種目を選択し、その種目を受講します。運動が苦手な人でも初心者向けの種目を選べばとても楽しいです。そして筑波の体育はニュースポーツ、フィットネス・トレーニング、シューティングスポーツなど普段聞きなれないような競技も体験できちゃいます！ 運動設備が充実しているので体育は充実していますよ。

第二外国語（知識は必修、メ創は必修ではありませんが受講可）

フランス語

フランス語は二つのクラスに分かれます。フランス語の授業は会話中心です。先生はフランスのあれこれについて教えてくださる、面白くて素敵な先生なので、講義が楽しいです。授業の雰囲気がいい感じなので、私は講義中リラックスできています（笑）。テストは、頑張りましょう。

ドイツ語

ドイツ語は週に2コマあり、一方は文法、もう一方は会話を主に勉強します。文法は教科書を読みながら講義を聞き、練習問題を解いて、と、中学の英語の授業と似たようなものです。試験はペーパーテストで、文法学習の確認が主です。辞書がないと解けない問題も多いので、辞書持込み可。会話の方では表現を覚えて、クラスメイトや先生と実際に受け答えをすることを主に行います。試験ではペアの子と指示された内容の対話をしました。学年末にはドイツ語検定もあるそうです。

ロシア語

ロシア語は第二外国語の中で一番人数の少ない言語です。他の第二外国語はクラスが分かれていたりするのに比べ、ロシア語は1クラスでも席が余るほどです。そのため先生との距離がとても近い講義で、よく話しかけられます。課題は毎週出たり出なかったりしますが、プリントを読んできたり埋めてきたりする簡単な課題です。テストは講義をちゃんと聞いていれば解ける問題なので、文法さえ覚えてしまえば割合楽です。何より楽しいので、迷ったらぜひロシア語にしてみませんか？

中国語

中国語は文をみて意味はだいたい分かってても、発音が難しいです。一学期の半分くらいは発音練習だけに費やしました。課題は予習で語句と読み方調べ、復習で練習問題がありました。テストは教科書から出題されるので、形式を知ればそこまで難しくありません。最後に、中国語履修者の鬼門、アチーブメントテスト（学習の到達度を確認するテスト）は実施日が近くなると授業で解説を受けますが、こつこつ勉強していないとつらかったです。

スペイン語

スペイン語は発音の際の規則が多いですがそれに慣れてしまえば発音自体は英語よりも容易です。スペイン語は週に2コマあり、一方で文法を勉強し、もう一方では実際に問題を解いていきます。それぞれ先生が違い、スペイン人の先生もいらっしゃるので本場の発音を知ることが出来るでしょう。

※この他にもアラビア語、朝鮮語も受講可（ただし知識は第二外国語の単位には含まれません）。

総合科目Ⅰ

フレッシュマンセミナー

通称フレセミ。筑波大学はクラス制を採っていて、知識情報・図書館学類は4クラス、情報メディア創成学類は2クラスに分かれます。フレセミでは高校でのHRのような感じでクラスメイトと仲良くなったり、担任の先生のありがたい話を聞いたりします。他にも先輩や支援室(事務組織)の方の話を聞いたり、中央図書館の見学に行ったりもします。クラスの人たちとは長い付き合いになるので、ぜひここで友だちをいっぱい作りましょう！

総合科目Ⅱ

自分の学類以外の講義を受けられるのが、筑波大学の特色であり魅力のひとつ。興味のある講義を数ある中から選択できるのがこの総合科目です。学生が広い視野を養うため、文理ABCの3種の科目群から講義を受講します。ここでは、開設されている講義の一部を紹介します。総合科目シラバスには様々な科目名が載っているので参照あれ。

科目群A：物質、数理、生命、環境等に関わる科目で概ね理系分野

映像メディア・コンテンツ表現入門（1学期2限）

映像メディアにおけるコンテンツ表現についての変遷や最新の情報を学びます。有名な映画の1シーンを観るなど、楽しいながら興味深いです。期末試験はなく、全員が各自で台本を書き、映像を実際につくってみます。

フィールドに学ぶ食と緑（1学期2限）

都会っこのみなさん！ 自然に触れ合いたいなぁと感じたことはありませんか？！ そんなあなたにオススメするのはフィールドに学ぶ食と緑！ 先生は優しく面白い。テストは授業を聞いていなくても分かるような常識問題。評価の半分は出席点。体験授業の場合は服装に気を遣ったり、集合場所が遠かったりで大変ですが、出席するだけで評価の半分をもらえるなら楽なもんですよ（笑）

現代物理学への招待 I

地雷だよ、よく先輩に言われた授業です（天の邪鬼な某編集委員がとりました）。先生によって内容は様々で、量子ドット、チャージング効果といった、初めて聞く話が勢いよく出てくる授業も、原子の大きさや電子軌道から丁寧に解説される授業もあります。数式は出てこなくて、出てきても「こんな式がありますよ」程度です。（この内容が数式なしでは逆に残念な気分にはなりませんが…時間が足りないのでしょうかね）。

日常生活の中で見られる神経筋疾患

脳血管障害、アルツハイマー、プリオン病、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、小脳変性症、変形性脊椎症、重症筋無力症、多発性硬化症、末梢神経障害と、非常に濃い授業です。医学的な知識のない学生に1から紹介するので、かなりのスピードで進みますが、MRI 画像や模式図をプロジェクターで見ながら結構詳しく話してくれるので楽しいです。特に中枢神経系の病気は未知のことが多くて、この原稿を書いている人はとても満足しました。

科目群 B：精神、文化、社会、歴史等に関わる科目で概ね文系分野

古典に学ぼう！ 日本と東洋世界（1 学期 1 限）

文系には癒しの時間。三人の先生がオムニバス形式で、それぞれ「源氏物語」「日本永代蔵」「老子」など異なる時代の日本と東洋の古典について語ってくださいます。興味があると楽しい話がたくさん聞けて面白いです。古典が好きだった人は是非。期末試験有り。

日本とは何か ―日本の歴史と文化―（1 学期 1 限）

二人の先生が前半は「戦争」、後半は「生活文化（暮らし）」をテーマに講義して下さいます。高校時代に日本史を取っていなくても問題なく受けられます。日本史履修者にとっては、また別の視点から日本を見ることができて興味深い授業です。期末試験有り。

科目群 C：文系と理系が融合したより広範な主題からなる科目

スポーツを変えた発明（1）（1 学期 2 限）

スポーツ界にはすごい「発明」をした先人たちがいた！ バasketボールの誕生、高跳びの背面跳び、野球の変化球…他にもラジオ体操の歴史や水分補給の通説の変化などそれぞれの分野の最前線の先生からためになる面白い話が聞けます。期末試験はレポート提出。

専門科目

全学類共通の科目以外に、情報メディア創成学類、知識情報・図書館学類の各学類でそれぞれの学類生が受講できる科目があります。ここからは、それらの専門科目を紹介します。

情報メディア創成学類の科目

解析Ⅰ・Ⅱ

やってきました、みんな大好き数学です。解析とは、つまるところ微分積分の応用です。微積なんて高校生で終わりだと思っていたあなた、情報メディア創成学類へようこそ！ やはり大学の数学、読めない文字や記号がやたらめったら登場します。しかし要は単なる微積です。しっかり勉強しましょう。Ⅱのほうでは2変数以上の微積分や3次元グラフ、微分方程式なども登場します。楽しそうですね。

線形代数Ⅰ・Ⅱ

行列の基礎概念を学び、それを基に行列演算、連立1次方程式の解法、行列式の性質や展開について講義と演習を行います。Ⅱでは、ベクトル空間、線形変換、核・像、内積空間、固有値・固有ベクトルと対角化等の線形代数の基本概念を学びます。線形代数の知識はプログラミングの知識に直結するので、みなさんがんばって勉強しましょうね。

情報数学

内容はおおまかにベクトルと行列、集合と論理です。具体的には、ベクトルと行列の和差積、単位行列、逆行列、集合と写像、真理値、命題論理、述語論理、論理演算、ブール代数など。

コンピュータリテラシ 講義・実習

Windows と Linux という2つのオペレーティングシステム (OS) を用いて行います。文書作成、表計算、HTML、進数表現、論理回路の考え方、Linux のファイルシステムの操作、LaTeX…などの入門です。2学期以降学ぶことの基礎になります。

コンテンツ応用論

社会の第一線で活躍していらっしゃる方々を外部からお呼びして講演をしていただくオムニバス講義です。ゲームクリエイターや映画監督、プロデューサーやメディアアーティスト、コミュニケーションデザイナーやビジネス産業など、様々な業界から錚々たる講師の方々がいらっしゃいます。質問をしたり自分を売り込んだり目標ができたりと、自分を見つめ直すいい機会でもあります。

情報メディア概論

これから学ぶべきことの、はじめの一步をつまみ食いしていくような授業でした。Ruby を使ったオブジェクト指向とか、PL/0 を使った計算機の原理とか、Java を使った GUI プログラミングとか、HTML 通信とか、HTML5/CSS/JavaScript とか、SSH とか。理解できなくてもまずコードを書き写してみよう、という感じでした（何か1つ詳しく調べて学期末にレポートを書く必要はありますが）。企業のセミナーもありました。Adobe 社とか Wolfram 社 (Mathematica を作っていますね) とか。

今年から先生が替わってこの授業は大きく内容が変わったそうです。多分来年は今年と同じような内容だと思います。（去年は、CCD や携帯電話の中身、画像や信号表現の仕組み、暗号通信の原理、量子情報処理、など、情報技術の基盤となるものをざっくり解説していたようです）。

教養と科学

前半は、情報メディア創成学類に所属している教員が自分の研究を題材にして紹介講演を行います。講演者との質疑やレポートなどによって、学類に関連する技術や研究の動向を学びます。自分が研究したいことを見つけていくのもいいかもしれません。

コンテンツ表現演習

デジタルコンテンツ研究に必要な情報表現技術やデザイン手法を実践的に学びます。年によって内容が違いますが去年は立体造形でモビール制作を、コンピューターアートで Photoshop や Illustrator を使ったコラージュを制作しました。

プログラミングⅠ・Ⅱ プログラミング実習Ⅰ・Ⅱ

コンピュータ初心者を中心対象に C 言語を用いてプログラミングの基礎を学びます。

去年はプログラミングⅡの講義の中で C + OpenGL の組み合わせでグラフィック関連のプログラミングを行いました。プログラミング言語の入門言語かつスタンダードである C 言語を学ぶことで、「C 言語を完璧にマスターする」のではなくプログラミング言語の覚え方をマスターするのが目的だそうです。

課題はわりとハードです。

コンピュータシステムと OS

コンピュータシステムのアーキテクチャと動作原理や、オペレーティングシステムの主要な機能について学びます。おそらくメディア創成のなかで一番下のレイヤーを扱う講義で、アセンブリ言語でのプログラミング実習もあります。

ここまで紹介したのはどれも 1 年次の授業です。

3 年次からは、1, 2 年で学んだことをより専門的に学ぶ専門科目の授業が中心になります。

例えば、スターウォーズのような映画の映像を表現するために用いられる技術である 3DCG について学ぶ「インタラクティブ CG」、日本語や英語など、人間が話す言葉をアルゴリズムを使って機械的に処理する仕組みを学ぶ「自然言語処理」などの科目があります。

さらに 3 年ではテーマごとに演習を行う情報メディア実験、4 年では自分でテーマを設定して研究を行う卒業研究があり、自分の得意な分野を中心に研究をして卒業することになります。

知識情報・図書館学類の科目

知識情報概論

この講義は筆者的に大学 1 年の 1 学期で一番大学らしい授業な気がします。それは問いに対する答えがないからです。答えがあっても、人によって違うといったところでしょうか…。この講義では知識情報学についてあるフレームをもとに考えます。この授業が知識情報学のスタートです、たぶん。1 年の時は分からなくても学年が上がることに「ああ、そうだったのか」となるそうです（先輩談）。今まで知らなかったような概念のオンパレードですが、噛めば噛むほど味が出てくる講義です。

情報基礎

こんにちは、文系の皆さんにはあまりなじみがなかったかもしれないコンピュータのお時間です。…というわけで、コンピュータ関連のさわりをささささーっと学ぶ時間。PC 詳しい人には当たり前のことだらけらしいのですが、筆者は知らないことだらけでした、はい。目玉は先生の質問に答えますタイム！ コンピュータのコアな話から素敵なお家族のお話まで教えてください。先生、本当にいい人です（しみじみ）。テストも授業をちゃんと聞いて、ちゃんと対策すれば解けます。

情報基礎実習

大学生になって最初に立ち上がる壁、Word、Excel、画像データ、書誌事項、Power Point など…。これらの基礎を1学期かけてじっくり学びます。毎週レポートが課されます。締め切り前にはなぜかみんな人格が変わります。どうしてでしょうね（遠い目）。別に辛くないよ…？ つ、辛くなんて…ない…ん…だから…ね？（お察してください）でも頑張った分だけ評価がちゃんと上がってくれます。

情報数学

本学類の学生がまず高校生にいう言葉、「数学…がんばれ…」。その第一歩がこの科目。必修科目の数学は実は少ないのですが、この科目は必修です。ただ筆者の印象では、より国語に近い数学だと思います。要は、どう筋道立てて考えられるか、ということですね。プリントには楽しい仲間がぼぼぼぼーんしています（∀ x）←受ければわかる。テストは、過去問を解けばどうにかなる…はず。

基礎数学 A

こちらの数学は選択科目です。必ずしも全員が取らなくてもいい、ということ。情報数学よりはより高校までの数学に近い感じです。III Cの復習 + α といったところでしょうか。高校でIII Cを履修していない人にとっては少し大変ですが、みんなちゃんと単位は取っています。大丈夫。テストも、授業の内容の基礎的な部分が理解できていれば解けます。

哲学

ミレトスの自然哲学から論理実証主義まで、広範囲に展開する哲学を、広く浅く学んでいく科目です。就職試験に出ることもあるので、この知識は結構大事。知識情報学を考えていくうえでも、哲学の知識は大いに助けとなります。…といいつつも、この記事を書くために分厚い資料を取りだしてくる程度にしか覚えていなかった筆者← だめじゃん。「倫理」取った人にとっては余裕らしいです。へーえ。テストは記述です。がんばりました。

プログラミング演習 I

プ、プログラミング…！？ 学類間違えたよ、という皆さん、ちょっと帰ってきてー。本学類では、プログラミングの知識は必須です。システムを学びたい人も、司書になりたい人も、プログラミングができる人は重宝されます。ここで大事なのは、知識ではプログラミング言語としてC言語やJavaではなく、「Ruby」を学ぶということ。筆者はプログラミングは超苦手ですが、まあどうにかなりました。先生もTAさんも優しいです。食らいつきましょう。

知識情報・図書館学類 の専攻

前のページでは1年次で行われる講義を紹介してきました。

知識情報・図書館学類には三つの主専攻があり、3年次になると、「情報経営・図書館主専攻」「知識科学主専攻」「知識情報システム主専攻」のいずれかに属します。「情報経営・図書館主専攻」は社会に、「知識科学主専攻」は人間に、「知識情報システム主専攻」は情報技術にそれぞれ焦点を当てています。ちょっと難しいかもしれませんが、気が向いたら読んでください（笑）。

ここではそれぞれの専攻について、紹介します。

■ 情報経営・図書館主専攻

情報経営・図書館主専攻は「社会」に焦点を当てた主専攻です。さまざまな知識をどのように社会に活かしていくかについて学びます。図書館もその知識を社会に流通させる施設のひとつとして捉えています。

講義も「社会」に焦点をあてたものが多いです。知識情報サービス（図書館もそのひとつです）の運営やその中身に関するもの、知識情報を社会に伝えていく教育に関するもの、知識情報を支える法律に関するもの、書物の文化に関するもの、メディアが社会に与える影響を考えるものなどがあります。詳しい講義名が知りたい人は「知識情報・図書館学類パンフレット2012」の3ページを見てみてください。ここに書いてある文章はそこに書いてある図をすごく噛み砕いて極力わかりやすくした文章です。それでもわかりにくかったらごめんなさい（笑）。

生きていく上で必ずかかわりを持つ「社会」へ、「知識」を使ってどのようにアプローチをしていくかを考えるのはものすごく楽しいです！ 知識情報・図書館学類へ入学したら是非うちの主専攻へおいでくださいませ☆

メディア教育の実践と評価

この科目では主に、「メディア・リテラシー」や「情報活用能力」を教育実践の場でどう伸ばしていくか、どう評価していくか、ということ、日本だけでなくカナダ・北欧・アジア諸国などの様々な視点から学んでいきます。専門用語がわかりません…ふええ…という方は、いい機会ですので調べてみましょう。各種メディアの活用はもちろん、授業の中でNHK・Eテレの文字を見たときは興奮しました。余談ですが先生が美人です（*´`*）

情報サービス構成論

レファレンスサービス、という言葉聞いたことがあるでしょうか。程度や内容は図書館にもよりますが、基本的には図書館員が利用者の疑問・質問の解決のお手伝いをするサービスのことです。この科目では、レファレンスのプロの先生が、主にレファレンスサービスについてがっつり（でもさりげなく）叩き込んでくれます。毎回ビデオも見ます。内容はしっかりしているのですが、ストーリーがなかなかシュールで楽しいです（笑）

■ 知識科学主専攻

おそらく一番何をやっているのかが分かりにくそうな知識科学。そこではどんなことをやっているのでしょうか？ 知識科学主専攻は「人間」に着目します。知識科学主専攻では、知識・情報と人間とのかかわりについて学ぶことができるのです。これだけだと漠然としていて分かりにくいかもしれませんが、具体的には、「そもそも知識やら情報って何なの？」とか、「私たちはどうやって情報を探すんだろう？」といったものです。さて、これらの疑問を解決するには、さまざまな分野の知識が必要です。そんなわけで知識科学では、文系・理系を問わず、非常に幅広いジャンルの授業が開講されています。

テクニカルコミュニケーション

皆さんマニュアルってご存知ですよね？ 携帯電話やテレビを買ったとき、お家にある電化製品が壊れたときに、引っ張り出してきて頼りにする“あれ”のことです。“トリセツ”とも言いますね。マニュアルには製品の使用方法・手順や困ったときの対処法などが載っています。この授業では、ズバリ、専門情報を正確にわかりやすく伝える方法を、マニュアル制作を通して学んじゃいます。演習ではTwitterも使うので楽しいですよ！

知識科学実習

知識科学実習は、数週間ごとに担当の先生が変わり、質問紙調査やMoodleを用いたe-learning教材作成などいくつかのプロジェクトを主にグループワークで取り組みます。主専攻の仲間と一緒に知恵を出し合って協力しあって仲良くなれるのが魅力的です。前述したプロジェクトのほかにも統計処理ソフトのSPSSやRなどを用いてあれこれ分析したり計算したり。2年生までに学んだことを活かす場でもあるので、質問紙調査をする前提知識として量的・質的調査法を履修しておくことをお勧めします。

■ 知識情報システム主専攻

1学期必修である知識情報システム実習では、グループごとに出したアイデアを元にシステムを開発し、プレゼンテーションを行ったり、HTML5を用いたアプリケーションの作成などを行ったりしました。その他に主専攻で開設している科目には、Webプログラミング、情報サービスシステム、知識資源の分析など、システムを設計する際の考え方、それらを構築するための技術、システム内でのデータの扱い方などを学び、習得する科目が中心となっています。

知識情報システム実習

この授業は、基本的にシステム構築をメインとして行われます。1学期は、前半はグループに分かれデータベースを使うシステムを構築し、後半は個人でHTML5を使ってゲームや予定表などを作成し、最後に発表します。2学期は「電子図書館」「電子書籍」「Java」の3グループに分かれ、それぞれの課題を進めていきます。プログラミングなどが苦手でも、グループの仲間と助け合って作成するので、とても楽しい実習です。

Webプログラミング

この授業は講義と演習の2本立てで行われます。まず講義でサーバ側プログラミングやブラウザ側プログラミングの基本的な事項を学習・理解します。その後、Webの機構を用いて情報提供をするようなプログラムを、演習として実際に作成します。座学では理解しきれないことも、実際に演習をすることで、楽しく考えることができます。演習は全部で3回あり、そのうち2回レポート課題が課されます。テストは論述形式で、様々なWebの機構等の原理や仕組みへの理解が問われます。

合格体験記

情報メディア創成学類編

AC 入試	- 17
推薦入試	- 19
前期入試	- 20
後期入試	- 21

知識情報図書館学類編

AC 入試	- 24
推薦入試	- 27
前期入試 (文)	- 30
前期入試 (理)	- 33
後期入試	- 34

「春日民になりたい」

そう思う方いらっしゃるでしょう。頑張ってください！

かすがらいふ一同応援しております！！

でも、ふとこんな疑問にぶち当たるのではないのでしょうか。

「受験ってどうすればいいの？」

それはみなさんが一回は持つ疑問、焦りだと思います。春日民も経験してきました。

「AC の対策って…」

「推薦の面接どうしよう…」

「二次対策はいつから始めればいいのか…」

「小論文がうまくかけない…」

わからないことだらけではないのでしょうか。

でもこれらを乗り越えられなければ、楽しい楽しい春日民にはなれないのです…。

では、先輩の春日民は受験をどう乗り越えたのでしょうか。

ここからは学類ごとに AC、推薦、前期、後期を経験したばかりの 1 年次の人にその経験談を書いていただきました（だいぶ個性豊かなところがありますが）。先輩たちがどのように受験を乗り越えてきたのか、どう自分なりに受験を乗り越えるのか、この合格体験記を読んであなたなりに考えてみてください。

情報メディア創成学類編

AC入試

情報メディア創成学類 AC入試合格

◆受験のきっかけ

僕のケースはあまり参考になるかわからないですが、AC入試で入る人は型にはまらない人が多い（例えば一つ上の代には社会人になってから入り直した方とかがいらっしゃったり）ので、書きます。

僕は小学校に入る前からピアノと作曲をやっていて、大学も藝大の作曲科を受験するつもりで先生について勉強をしていました。

ところが、高1-高2の頃に僕の周りにもボカロブームがやってきました。音楽の歴史というのはある意味、技術革新の歴史でもあるわけですが、その一つの変化の過程に自分も立ち会うことになったわけです。

同じ頃、コンピュータを使った実験音楽（と複合されたエンターテインメント）にも興味を持ち始めました。気になる人はMax/MSPとかで調べてみると良いと思います。

高1の頃から所謂DTM（コンピュータを使って曲を作る行為）はやっていたのですが、それとは違うアプローチでコンピュータを用いて、音楽を作る（というよりは音を作る）行為も、なかなか面白いなぁと思ったわけです。同時に、このような行為を可能にしている技術インフラにも興味を持ちました。

最初はこの分野で一番進んでいる国立音大に行こうと思ったのですが、学費の関係と、職業音楽家というものの自体に見切りをつけていたこともあり、そういった情報技術を利用した音楽の形を支援したり、拡張したりするのも面白いかなぁと思って、情報×コンテンツ系の学部に行こうと考えました。

といっても、学校の勉強はおさなりで、もちろん一般入試対策なんてしていませんでした。最初は浪人しようと思っていたのですが、先輩にAC入試という存在を教えて頂いて、とりあえず受験してみたら運良く受かりました。

◆高校時代の過ごし方

中高一貫の進学校に入って勉強そのものにうんざりしてしまっていたので、勉強以外のことに積極的に取り組んでいました。

僕はコンピュータが好きだったので、それでできる色々なことをしました。ゲームを作ったり、音楽を作ったり、そういった活動を公開するために自分用のwebサイトを作ったり。

学内では、学生組織の運営を色々なツールを使って効率化し、部活や委員会での発行誌のデザインや編集もよくやっていました。

高校からは外部のイベントに参加してあれこれ“頒布”したりもしていました。

興味のあることは自分で色々調べて勉強しましたが、受験のための勉強はまったくしていません。

◆勉強方法（試験対策）

まず基本的なことを書くと、

- ・オープンキャンパスには参加しましょう
- ・要項は2部もらいましょう

くらいです。オープンキャンパスでどのような学生像を求めているのか把握すると、書きやすいです。

レポートは夏休みを使って仕上げました。

高校でやってきた趣味（ゲーム開発・音楽制作・Web開発・組織の最適化とか色々）のことで、受験のきっかけに書いた内容のことをぐだぐだと70ページくらい書き連ねました。

ただし、量というのはあまり重要ではないです（4ページくらいで受かった他の学群の友人もいます）。

AC入試で留意すべきなのは、これはあくまでも僕の主観ですが、

- ・今まで自分が何をやってきたか
- ・大学でなにをやりたいか（そしてそのやりたいことが、学類の趣旨に沿っているか）
- ・やってきたことを上手く説明できるか

の3点です。

これをいかにスマートに書いて伝えられるか（伝える技術が実は一番重要かもしれません）、ということと、あとは審査員の先生方が「こいつ面白い、ウチに欲しい」と思ってくれるかどうかです。

審査基準は公開されていないので、運要素は多くありますが、がんばってください。

余談ですが、慶應SFCの環境情報学部はメ創と同じような分野で、かつA0入試をやっているので調べてみると良いと思います。僕も受験して受かり、メ創とどちらに行くか随分悩みました。

立地や授業料、必修の数や履修形態など、よく調べて見ると良いと思います。特に履修に関しては、メ創が必修や教養を多くして全体の底上げにフォーカスしているのに対し、SFCが自由科目や1年からの研究実践を導入して個人の学びにフォーカスしているという違いがあります。（もちろん私見ですが）

ここは国立と私立の考え方の差かと思います。どちらが良いということもないので、よく検討してみてください。

◆一言

大学に入るということがどういうことか、何のために大学に入るのか、よく考えてみると良いと思います。少なくともAC入試では、あなたが何を考えて大学に入ろうとしているのか、教授の方たちはとても知りたがるでしょう。みなさんの入学を楽しみにしています！

◆受験のきっかけ

私はゲームが大好きで、国際競争で負けないようなゲーム作りたと思っていました。しかしどのような大学で学べばいいか見当が付きませんでした。そんな中、高校1年生の時に科学技術振興機構主催のサイエンスキャンプ、東京工科大学メディア学部の「音をあやつる」というプログラムに応募しました。音をさまざまな形態のグラフで表したり、プログラミングで自分オリジナルの音を作成したり、また映像に効果音を付けたりDTMソフトを使い作曲したりと、非常に貴重な体験をさせてもらいました。

この体験から、メディア学部なら楽しく学んでいけるのではないかと考え、メディア関連の学部を躍起になって検索しました。そして筑波大学情報メディア創成学類に出会いました。夏季オープンキャンパスに参加し、模擬講義を受けて自分はこの学類で学びたいという決意は絶対的なものとなりました。

◆高校時代の過ごし方

○1年： そこそそ真面目に授業をうけていたと思います。この頃自分は理系科目が全く出来なかったので文系に進むものと考えていました。しかしサイエンスキャンプへの参加で理系に進むことを決心しました。

○2年： 理系選択して立ちは大壁、かべ、かべ。人より遅れていた分を必死になって勉強していたと思います。そしていつの間にクラスでも上位の成績を取れるようになってきました。しかし家庭科や保健という科目を非常に疎かにしてしまい大変なことに…この年に初めて筑波大学オープンキャンパスに行きました。

○3年： 春には志望理由を文章に書き出し始めました。英検準1級取得。昨年勉強を疎かにしてしまった分を取り戻すのに躍起になってました。面接対策は夏休み明けから始めましたがなかなかうまくいかず…そして悲劇、11月から高熱が続く。運命やいかに…

◆勉強方法

得意な英語に関してはとにかく量をこなしていました。慣れが大事だと思います。数学はコンスタントに勉強し続けることが大事だと思います(全然アドバイスになってませんが…)。個人的には得意科目は高校3年の夏にはガッツリ過去問ができるように仕上げとくのがベストだと思います。あと息抜きは大事、ここ重要。

○推薦入試に関して： 試験形式は、小論文という名目で数学に関する英文が一題と通常の小論文が一題の計二題です。数学は私たちが触れたことがないであろう内容が出題されますが、英文を読めば必ず解けるようになっています。あまり英文に時間を取られてると後の一題を読む時間がなくなるので注意しましょう。私はやらかしてしまいました…

○面接について： 面接では口頭試問があります。私が受けた時は数学の問題を三題の中から1つ選び、黒板に解答を書き出しました。面接の雰囲気は圧倒されそうでしたが、とにかく必死に試験員と言葉のキャッチボールをしました。とにかく入りたいという熱意を伝えましょう！

◆一言

大学は本当に楽しいです！ それはやっぱり受験のときにたくさん努力したからだと思います。つらい時期はあるかもしれませんが、努力は絶対無駄にはなりません！ 頑張ってください！ 後、行きたい大学が決まったなら受験の準備は早くしましょう。私のように受験前になって病気にかかってしまう可能性は0ではないですから。

◆進学を決めた理由

高校時代に受験する大学を探すにあたって、高3になるまでとくに目標としてる大学がありませんでした。元々CGやゲームなどのメディア関連に興味があったのもありますが、自分が苦手としていた理科科目が試験で全く必要ないと知った事が受験大学を筑波に決めたひとつの理由でした。2つ目は、地元が千葉ということもあって、高2の時に一度筑波大を訪れたことがあり、その時にこの筑波大学の国内有数の広さや施設などにひかれたのも自分を後押し、「じゃあ前期は筑波を受けよう！」と決めたのが始まりでした。

◆高校生活

高校時代は野球部に所属していて、毎日練習が夜遅くまで続くような状態で、塾に通い始めたのは高3になってからでした。それまでは部活を頑張り、文化祭や体育祭、合唱祭などを思いっきり楽しみ、とても充実した高校生活だったと思います。正直高3になるまでこれといった受験勉強をしておらず、高2の後半から徐々に周りの友達が勉強を始める姿をみてかなり焦っていた部分はありました。基本的に集中が長続きしないので、受験期でも遊びたくなったらどんどん息抜きをする、という感じでやるときはやる、やらないときはやらない、といった風にメリハリをつけて受験期を過ごすようにしていました。友だちの中には「PCは絶対禁止」している人なんかもいましたが、正直自分はそういうことをしようとしてもできなかったと思います。

◆受験対策

メディア創成はセンターの比率が高いのが1つの大きな特徴です。そのため自分は11月にはセンター対策の勉強ばかりしていました。メディア創成は、センターで合否が決まるといっても過言ではないと自分は思います。

前期試験は、数学は数II B III Cが中心で出されます。つまり確率が出ないので、確率が苦手な自分はとても助かりました。問題は比較的簡単な問題が多いので、問題集をやりこめば高得点は取りやすいと思います。英語も長文はそこそこ長いのが出ますが、読めないというほど難しくはないので、長文に慣れてさえいれば大丈夫です

勉強法としては、自分は「1つの参考書、問題集をやりこむ」ことをしていました。とくに、前期の数学に関しては自分は青チャートを使っていましたが、センター後はそれをノート5、6冊分以上やりこみ、英語に関しても1つの単語帳を何周もやった覚えがあります。

◆一言

受験を最後まであきらめないで下さい！自分はセンター2週間前までセンターの理科科目が8割乗らなかったり、赤本やっても全然解けなくてかなり不安でした。でも、やることさえやれば必ず結果はついてきます。今、筑波大を受けるか微妙な学力でも、2月には格段に学力は上がっているはずです。大学は自分の将来にかかわってくる大事な要素です。一生に二度とない受験期、妥協するくらいなら挑戦してみてください。自分を追い込む必要はないと思います。ときには息抜きをしつつ、来年笑顔で入学式を迎えることを期待しています！

◆受験のきっかけ

ごちゃごちゃしていて自分でもわけがわからないので、文章全体から察してください。

ここでは以下の文章に書いてないことだけ書きます。

情報系の大学生になれば、パソコンは勉強道具なので、パソコンを使っても罪悪感を感じることがなくなって精神衛生上いいな、と思ったのが1つです。

それから、筑波大学という名前は、親戚にウケがいいのです。

◆高校時代の過ごし方

○1年生

とって真面目に過ごしました(´・ω・`)ｯｯ。ぼくの高校は進学校であるとともに50kmを走る体育校でもあります。運動が苦手だから自主的にランニングをしていました(ｯｯ)。

部活は数学部と化学部に入っていました。数学部は、高校生活の中でたぶん一番重点を置いていて(せっかくならもっと深く数学を勉強するべきだったけれど…)、2年生が、IAからIII Cまでの内容を、1年生に1年間で教えてあげるとい部活でした。

定期試験は学年2位を維持していて(何故か1位は頻繁に入れ替わっていた)、先生も友だちもぼくは東大に行くものだと思っていたようです。

○2年生

理系に進みました(´・ω・`)ｯｯ。まだ学年2位を維持していました。

でも、ずっと勉強し続けたいといけないことに疲れてきます。でも、勉強を止めるわけにはいかないわけです。そこで「勉強とか人生とかの意味を見つければ疲れてもそれなりに楽しく勉強できる」と思って哲学や社会学に助けを求めます。答えを教えてくださいなさそうなことに薄々気づきながら助けを求めてハマります。内田樹さんとか池田晶子さんです。せっかくだから古典的な哲学書も読みたいと思ったけれど、すぐ眠くなるので1ページ未満が数ページで挫折しました。でもこのときは哲学とか社会学の研究者になるつもりでした。

○3年生

文転しました(´・ω・`)ｯｯ。でも、文転したら授業が全然理解できないし、寝たくもないのに寝ます。それに3年生になって先生方が「受験受験」と加熱していくのが嫌で嫌でもやもやしていました。哲学と社会学も結局嫌いになります。

受験が迫っている時期に、1年生のときから通っていた、とある小規模な予備校を辞めました。できる限り「受験に向けて」みたいな話を聞きたくなかったのです(今思うと辞めても辞めなくてもあまりストレスの量は変わらなかったとは思いますが)。学院長からは止められましたけど。どういう状況だったかよく覚えてないですが、何故か昼間ひとりでどこかで外食をしているときに、決心したのか、とある信頼する先生に連絡して、辞める意思を伝えていただきました。

そんなこともやっていましたが、臆病な子なので毎日学校の授業に出席はしていました。

センター試験直前に急遽、理系でセンター試験を受けました(´・ω・`) ｷｯ。バーチャルリアリティを作って自分の意識ごとサーバにアップロードして楽しく過ごそうと思ったのです(空想)。前期東大は落ち、後期は足切りに届かないということで出願しませんでした(何か出願すればいいのでしょうか、3年生になってからは憂鬱なときが多くて考える気力がなかったのです)。

◆浪人時代の過ごし方

○1 浪目

予備校に行け、と親・学校からいわれたものの、ずるずる抵抗して自宅浪人(宅浪)しました。親と面と向かって話すのが怖かったり申し訳なかったりして、それっぽい理由を言っただけで、単に予備校に行く気力がなかったのです。満員電車に乗ること、隣に人がいること、自由な姿勢がとれないこと、などに耐えられないと感じました。

それに、もう3年間も「受験受験東大東大」と毎日うるさく喧伝されて消耗していたから、隠れて大学の勉強をしたかったのです。数学とか物理学とか。でも、受験勉強しなくちゃいけないという罪悪感はずきまといます。実際に入試問題は白紙になるような学力だったからなおさらです。そうすると、やりたい大学の勉強も手がつかなくて、受験勉強もせず、Webサイトを見ているか寝ているかの毎日になります。Webサイトのお陰で英語だけは得意でしたが。

この頃はもうよく覚えていなくて間違えているかもしれませんが、前期に東大、後期に東工大を受けたような気がします。意識が朦朧としていたような印象しかありません。

○2 浪目

予備校に行けという圧力をさらに受けたのですが、ぼくが情性で粘って宅浪でスタートしました。1浪目と同じような生活をします。夏休みに3年次の担任の先生に呼び出されて予備校に通うことになりました(先生が推薦したので試験なしで東大コース)。授業はわからないし、予習復習しないし、電車通学疲れるし、自習室も人がいるのが嫌で行きたくなくて、予備校の費用はみんなどぶに捨てました。

前期・後期ともに東工大を受けました。後期試験の直前に地震があって、デスマーチのような生活が一瞬破壊されてぼくは嬉しかったです(余震で気持ち悪くなりながら)。

○3 浪目

春休みに体調がおかしくなりました。風邪で久しぶりに何度も吐いて、その後下痢や便秘が続いて、食欲もなくなりました。果物ジュースだけで過ごした期間もあります。このときに「自分の身体の中の生化学反応を全て把握したい」と思いました。一瞬一瞬身体のあらゆる部分で起こっている全ての反応の、電子の移動まで含んだ細かい反応機構を、全て把握できたらなんて面白いだろうと思いました。今この瞬間身体の中でどんな反応が起こっているかをモニターできれば、今の瞬間何か苦しいことがあっても何もかも忘れて反応の複雑さに没頭できるんじゃないかと思ったわけです。

そこで医学研究者になりたいと思いました。今度は予備校を医学コースにします(前年度に東大コースにいたから試験なし)。東京まで通うのは苦痛だと言うことを学んだので、地元の埼玉県内の校舎に変更しました。地域医療

など医学・医療関係で興味のある本をいろいろと読みながら、前期はとりあえず全授業に出席するように頑張りました。予習復習はしてないのですが。朝も夕方も、家にいる間はひたすらベッドで寝ていました。

でも、「もし医学生・医者・研究医になったら」と考えると、とてもストレスに耐えられそうになかったのていつだったか、医者は諦めるようになりました。

このとき、（医学に興味を持ったのと同じ理由で）自然栽培に興味を持っていて、自給自足生活がしたいなと思いました（農業しながら家の中ではプログラミング！）。にんじん1本にだって、検出されていない、またはターゲットにされていないだけで、どの研究にも書かれていないような微量な成分がたくさん含まれているのではないかと思うのです。生命体なのだから、相当複雑に構成されているはずだと思うのです。これを1つ残らずリストアップしたいと思っています。慣行栽培と自然栽培で何が違うのかということ、全ての成分を示して説明したいと思うのです。京大に食品生命科学という素晴らしいような学部と自然農法研究会というサークルがあったので受けたけど落ちました。

出願前にサークルを調べていて、のうりんむらというサークルがつくばにあることを知ります。でもこれは生物資源学類内サークルらしいと言うことがわかりました。でも、生物資源後期は志望理由書と面接が必要だったから諦めました。さらに調べると、とんぴくりんという自由に（カオスに？）農業をやっているサークルがあって、そこはどこの学類でも入れるようなので後期に筑波大学を受けました。

◆勉強方法

わかりません

◆筑波に入ってから

色々な団体に入っています。農業を自由気ままにやっているサークル、野良猫の管理をするサークル、プログラミングコンテストへ向けて練習するサークル、情報メディア創成学類の学類誌を作る団体、クラス代表者会議、全学学類・専門学群代表者会議、聴覚学生支援、運動障害学生支援…など。割と元気にやっているのは、テンションが低い自分でも受け入れられるような懐の広い人たちが結構たくさんいるからです。幸運なことに、所属サークルだけでなく、情報メディア創成の人たちが割とゆったりしていて寛容な感じでした。受験前には知らなかったのに幸運ですね。自分に合う環境を見つけることが、順番として、頑張るよりも先に大事なのかなと思いました。

◆一言

あなたががんばっていてもがんばってなくても、ぼくは頭ごなしに叱ったりしないし、味方だ、って言いたいです。

知識情報・図書館学類編

AC入試

知識情報・図書館学類 AC入試合格

◆受験のきっかけ

AC入試を志す皆様、自分の胸に手を当てて尋ねてみてください。可愛いあの娘の胸じゃだめですよ。貴方は自分にしかない特別なものを持っていると公言できますか？

一風変わった入試形式であるAC入試は、そのアプローチの仕方も他の入試とは全く違うことをまず断言しておきます。一般受験との両立はまず不可能。高3の夏をすべてかけられる、絶対に筑波大学に入りたい！と信念を持ち続けられる貴方だけにAC入試をオススメしたいと思います。

私が筑波大学に来たキッカケは、いままでの人生すべてです。自分は誰で、将来は何をしたいのかを考えたときに、筑波大学が私の夢を実現するために1番チカラになる大学だと思いました。

受験を決めたのは高校3年生の初夏でした。遅いですね。それまでは、ベストセラー出して宇宙に行くとか劇団に入って芝居で食っていくとか真剣に考えていました。でも大学受験にさしかかり、はじめて将来のことを真剣に考えてみたんです。私は児童劇団で演劇を14年間つづけ、舞台が自分の居場所だと思っていました。その繋がりで本を読んだり文章を書いたりするのも大好きでしたし、たくさんの年齢の方と接する機会が多かったので、子供たちに教えたり年上の方に話を伺ったりすることもいっぱいありました。高校では図書委員や文芸部員として全力を尽くしていました。その経験をどう将来に活かすかと考えると、ひとつの答えにたどり着いたんです。演劇をしていた経験から、人生観と観察眼、コミュニケーション能力を得たこと、文芸部の活動を通して問題解決能力を得て能動的な自分に変われたこと、図書委員会の活動を通して学校図書館について真剣に考え提案していったこと。それらを統括して、私は学校図書館の先生になりたいと結論付けました。そして私の人生設計の中に筑波大学が組み込まれました。

AC入試を知ったのは、模試に闘魂こめていた頃でした。英単語は覚えられないけれど長文読解やオーラルコミュニケーションは得意で、哲学者の名前は覚えられないけれど実存主義については一言物申したい、そんな受験生だったので当然ながら穴埋め試験は大の苦手。もっと自分の価値を存分にアピールできないのかと不満に思っていました。そして出会ったAC入試。これは私のためにある入試だと思いました嘘です言い過ぎました←

でも、AC入試ならば、自分がいままで頑張ってきた全てを評価してくれると確信し、受験を決めました。事実、その通りでした。

ACで入学した人たちは、皆すごくてどこか変な人ばかりです(ただし私を除く)。それは、自分にしかない個性をしっかりと持っているという事なのではないかと思っています。

◆高校時代の過ごし方

○1年生

私立の中高一貫の女子校に通っていました。文系クラスで、ひたすら古典や日本史に親しんでいました。百人一首や万葉集が大好きで、妖怪つくも神について研究していました。太宰治にハマったり明治文豪に憧れて高等遊民を目指したり。パソコンはJavaを中学で齧った程度で、興味はあるけれどそこまで詳しくはなかったです。成績はこのころが一番良かったかもしれない。英検などの資格を取っていました。

ざっくり言うと、演劇しかしていません！ 脚本を書いたり芝居の稽古をしたり毎日演劇のことばかり考えていました。担任の先生に「森澤さん、大学行くの？」と個人面談で聞かれるくらい。

○2年生

委員会と部活しかしていません！ 図書委員長と文芸部長を兼任していたため、学園を走り回っていました。毎日が全力投球。フルイニング出場、常に満塁ノーアウト。受験のことは頭になかったです。成績はこのころが一番悪かったかもしれない。

文芸部、創部しました。本が好きで創作が好きで、もっと活動の幅を広げたいと考えたからです。容易ではありませんでした。思いこんだら試練の道に行くが部長のド根性。そのために四方八方駆け巡ったことは自分の成長にもつながりました。

図書委員会では、図書館を盛り上げるべく委員長として全員をまとめていました。小学生のころから学校図書館に住みついていた経験から、図書館は単なる本のある部屋ではないと強く主張したい。読書は孤独な作業ではないのです。本があって人がいる場所がある。学園で一番アツイ場所、それが図書館なのだ！ と熱弁をふるい、本の虫から図書館に来ない人まで、全員に合ったサービスを考え実行し、様々なイベントを企画しました。

○3年生

急に現実を見た受験生。春はまだ演劇科に進もうと考えていました。コンピュータクリエイターの専門学校の資料も取り寄せていましたね。やりたいことがあり 過ぎて本当に何がしたいのかわからず混乱していました。そこで梅雨の頃に真剣に将来について考えはじめました。そんな中、ついにAC入試と出会います。これしかないと思いました。私が高校で頑張ってきたこと、いままで経験したこと、すべてを提出書類に書きました。夏休みは毎日PCの前で執筆していました。毎日死ぬ気で受験対策をしていました。学友の生ぬるい話 に悔し涙を流しながらひたすら書き続ける。志望理由書、自己推薦書の執筆・修正を繰り返し、9月頭にギリギリ完成、願掛けをして提出。秋は面談で話すことを真剣に考えてジャンル問わずいろいろな本を読みました。合格してからは、高校生活でやり残したことがないように再び精力的に活動し、よく遊びよく学ぶ、幸福感と満足感に満ち溢れた冬を迎えていました。

◆受験対策

まず、ACについての情報を、できるだけ早く入手しておくことが大切です。筑波大学のホームページを見たりパンフレットを読み込んだり……。アドミッションポリシーを読み、大学がどのような人物を求めているのか、それが自分と一致しているのかを確認してください。筑波大学アドミッションセンターホームページの中にある、入学者レポート集も参考になります。それから、絶対に、願書は2部入手すること。

○志望理由書

たったの 800 字。短いですね。自分が将来やりたいこと、そのために入学してから何をするのか、まで書きましょう。大切なのは「筑波大学は〇×だから～」ではなく「私は〇×なので～」というように、自分自身のことを語ることだと思います。誰かに読んでもらい、批評を受けるとより良い文章が書けますよ。

○自己推薦書

枚数形式制限なし。こだわり抜いた方法で自分の価値を存分にアピールしてください。内容は、いままでの研究を書くもよし（この形式が一般的かもしれない）、自分の人生について語るもよし（私はこのタイプ）。とにかく「自己」を「推薦」するレポートを書き上げましょう。知識情報と直接関係ある話ではなくても良いようです。私は前述した、「演劇」「文芸部」「図書委員会」の 3 本立て構成にして、自己推薦書を書きました。

字数は最低でも 1 万字が目安のようです。私は約 3 万字のレポート + 資料冊子をつくりました。とはいえ実際は数十万字を書いた上での推敲が伴いました。手書きでは限界があるので、ワープロソフトで書くと楽です。私は PC だと多機能すぎて気が散るのでポメラを愛用していました。形式は論文の形式をとる必要がないので、私は章立てのうちのひとつを私小説にしました。ぜひ自分を一番アピールできる形式を探してみてください。資料集めは夏前に終わらせておくのが良いでしょう。

自己推薦書が最難関です。何度も書き直し、とことんこだわるのが重要です。

○面接

なんと 30 分間。長いですね。私は 3 対 1 の面接でした。みなさんにこやかに優しく、私の話をしっかりと聞いてくださるので、とても楽しい時間を過ごせました。30 分間はほぼ語りっぱなしです。そんなに話すことがないよ！

という人は、新聞・ニュースを読んで話題を探したり、志望理由書・自己推薦書をいつも何度でも読み返したりすると良いかと思います。私は予想問題を一問一答形式で「百人組み手」と題して作成してのぞみましたが、それでも予想していなかった質問に何度も遭遇しました。「ここまでどうやって来ましたか？」といった緊張をやわらげる質問から、とんでもない難問まで様々あります。自分の人柄を存分に炸裂させてください！ 私は爆発しすぎて教授に戸惑いの表情を頂きましたがそれでも大丈夫でした。

30 分も話していると、要点がズレてしまいがちです。本当に主張したいことをまとめておくの良いと思います。

◆一言

夏ですね！ 見上げる山、青い海、すべてを捧げて AC 入試に取り組む決心はつきましたか？ AC 入試は、貴方の人柄そのものが評価されます。評定や偏差値にしばられることなく自由にアピールしてください。そして合格したら……いっしょに課題に喘ぎましょ！

◆受験のきっかけ

知識情報・図書館学類ってガッツリ図書館について勉強して司書資格がとれるところじゃないの？

NO！ それは違います！ もちろん司書資格は取得することができますが、今や現代は情報社会。図書館もそれに適応していかなければなりません。情報社会で求められる知識や技術が必要なのです。この学類では図書館情報学はもちろんのこと、情報学において幅広いジャンルが学べます。そこは、私がこの学類に惚れ込んだ魅力でもあります。

私は実をいうとあまり読書はしません（まして文系なのにね…はは…）。パソコンを触るのが好きで、ネットに入り浸ったり、CG 作ったり、HTML 言語を使ってホームページを作ろうとしたりにわか以下の知識でいろんなことに手出ししていたので、志望校を決めるまでは情報系の大学に進んでもっと知識と技能を深められたらなあ～とぼんやり思っていました。とはいえ主に勉強するために高校の図書室や地元のいくつかの図書館、隣町の図書館などによく入り浸っていたので、図書館のあり方についても関心をもっていました。つまりは「情報分野のいろんなことを学びたい」と思っていたんです。そんな私にぴったりの超すばらしい大学はどこかにないかなあ…あらっ！ ここにあるじゃありませんか！ という訳で、今私はここにいるのです。

高2の夏休みの大学説明会に行ったのが受験を決定づけるきっかけでした。実際に大学の空気を肌で感じて先輩方と接し、貰った資料を読んでみて、確信しました。ここに入りたい、と！ 推薦入試の概要を知ったのもこのときで、視野の広さや意欲と高校生活で培ったコミュニケーション能力は推薦入試で大いに活かせるのではないかと思い、推薦入試を受験することもこの時点で考えていました。その後、物足りなくて高3でも大学説明会に参加しました。

そんな中途半端な奴なのでここに入ってから読書家の友だちの話にもプログラミングガチ勢の話にもついていけなくて、申し訳なく思うこともあるのですがね。

◆高校時代の過ごし方

○1年生

実は高校も推薦入試で合格しました。国立大学が狙える学力がありゃあすごいねと言われる程度の中堅県立高校です。念願の高校生だ！ わーいっばい遊ぶぞ！ とか何とか思っていたのですが、授業についていけなくなるのが怖くて結局きっちりかっちり勉強していました。恐らく高校時代ではこの頃が1番学内で成績が良かったのでは…。通年で学級委員をやったり、美術部と漫画研究部に入って油絵描いたり漫画描いたり、市の委員会が運営しているジャズバンドに入ってステージに立ってトロンボーン吹いたり、近所のおばあちゃんが開いている書道教室に通って世間話に花を咲かせたり、そこそこアクティブに活動していました。女子高だったのでこの1年間で見事にオッサン度に磨きがかかりましたね。

1年では特に志望校は決めておらず、面談で担任の先生に相談したところ薦められたのが筑波大学のこの学類だったので、へ～筑波大学にはこんな学類があるのか、と志望校候補のひとつになりました。

○2年生

私の高校は2年生から文理に分かれます、私は文系クラスでした。見事に中弛みというスキルを覚えたため、じわじわ成績が下がっていきました。決め手は夏にまんが甲子園という大会の本選に出場することになったので、夏休みを全て返上したことでしょうか。いや～でもとっても楽しかったです。初出場ながら賞をいただけて、しかも漫画家養成プロジェクトというものがありまして、某出版社さんにスカウトまでしていただきました。しかし、漫画家なんて私のような生半可な気持ちの奴がなれるもんじゃなかったのと、否が応でも筑波大学に行きたかったのでキッパリ断りました。そしてそんな奴がその後の秋に生徒会長になりました。

○3年生

受験の2文字に散々追い込まれた1年間でした。受験勉強も進めていましたが仮にも我が高校を代表する生徒会長、生徒の学校生活の充実を図るべく日々せっせと働いていました。中弛みを若干引きずって大体ボーダーあたりの学力のまま、9月半ばまでは学校行事の運営などでいっぱいいっぱいでした。(実をいうと、推薦入試にかけるしかないとまで思っていました)。推薦入試の対策を始めてからは、早朝から学校の図書室で自分の知識を広げるために本を読み、学校が閉まってからも逆方面の電車に乗って夜9時まで隣町の図書館の実習室に籠りひたすら小論文を書き、帰って泥のように眠る生活を送りました。

◆受験対策

この学類の推薦入試には、志望理由書は要りません(他のほとんどの学類では必要)。また、高校での評点を満たす方なら実質誰でも受験することができます。しかしそれだけ小論文と面接でいかに自分の個性や人間性をアピールし、相手に知ってもらえるかがカギとなります。

○小論文

過去問をとにかく解いて形式に慣れることが大切！ 解答時間は気にせずじっくり読んでじっくり考えて書いてください。私のように試験まで一度も時間内に解答することができなくても、なんだかんだで、緊張感で張りつめた試験会場の空気を吸えば勝手に頭の回転と手のすばやさが共に上がるので大丈夫です、何とかあります。練習段階で間に合うようになること越したことはありませんが、解答の質を上げることを第一に考えてください。毎回、課題文を分析して明確な自分の意見を主張できるようにね！

英語の課題文ですが、多くの先輩が口を揃えて「簡単だ」と言います。恐らく皆さんでも屁でもない問題だと思うので、こっちの対策を重点的にすることも無いのですが、私は英語が大の苦手という受験生において致命的なコンプレックスを抱えていまして…この英文が推薦入試において一番の不安要素でした。ですから、もちろん対策も英語の先生に毎日お世話になって長文読解の読み方や解答のポイントを教わりながら、ひたすら過去問を添削してもらいました。文章の流れや内容が把握できればバッチリかと思います！ 分からない部分があってもあきらめないで、とにかく解答欄は埋めましょうね(汗

○面接

人によってまちまちですが15分程度です。案外、話しているとあっという間に終わってしまいます。

複数の先生にお願いして対策を講じました。また、面接対策ノートを作って大学の魅力や自分の考えをまとめたり、質問の一問一答をできる限りたくさん作ったりしていつも持ち歩いていました。過去の質問例を見て傾向を把握し、様々な質問に臨機応変に答えられるようにしましょう。とはいっても志望理由や大学でやりたいことなどの基本的な質問以外は全くバラバラですが…。私は志望理由と自己アピールについては、どうしても最後の最後まで満足のいく答えが言えなくて悩みました。鬼のように厳しい先生に必死な私をものともせず、心がこもってないだの意欲が伝わってこないだのボロクソに言われて何度も泣かされたのはいい思い出です。

大切なことは自分をさらけ出すことです。いかに私がこの学類に行きたいのかを自信を持って、態度で示しましょう！ 解答例を作るのは自分が何を言いたいかを整理するのに役立ちますが、あくまで実際に聞かれたときは自然と口から出てくる自分の言葉で答えること。分からないことや知っているが知識が浅いため自信がないことでも素直にそう伝えた上で自分の意見を言えば、面接官の方もきちんと耳を傾けてくれます。

面接官は高校の推薦書や内申書を見ながら質問をします。さらにそこから派生して様々な質問を投げかけられます。私のときは漫画研究部に入っていたということで図書館における漫画の必要性なんかを聞かれました、運よく話しやすく好きな話題だったので話にもものすごい熱が入りました。「いやー熱く語ってくれたところ悪いんだけど、時間も来たのでここまでにしましょう」と笑われました。でも楽しかったです。

◆一言

大学は、勉強はもちろん大変ですが、その分自分のやりたいことができるし、楽しいこともたくさんあります。おもしろくていい先輩も同輩もいます。そんな大学生活をここ筑波大学で過ごすかどうかはあなた次第です。私は待っていますよ、おいでませ～！

前期入試 (文系)

知識情報・図書館学類 前期入試合格 (文系)

◆受験のきっかけ

小さいころから本が好きで将来は本にかかわる仕事に就きたいと漠然と思っていました。大学では図書館情報学がやりたいと思い、その学問ができる場所としてこの学類の存在を知ったのがきっかけです。

◆高校時代の過ごし方

○高校1年生

勉強よりも部活優先。勉強さぼり気味。担任にこの学類を勧められるも自分には無理だと思ってあきらめる。

○高校2年生

2年生のときの担任に再びこの学類を勧められオープンキャンパスに参加してみる。この学類の説明や、学生の話聞いて大学に行くなら絶対ここがいい！！と思うようになり志望校を決定する。それからは勉強もちゃんとやり始める。だけど相変わらず部活優先。

○高校3年生

今まで部活にあてられていた時間がすべて勉強時間になる。学校で受験モードが本格化していくにあたって生活リズムを夜型から朝型(22時就寝、4時起床)に変える(これは完全なる一例です。夜のほうが集中できるという人は無理して朝型に変える必要はないと思います)。教室の黒板のすみに書かれた[センターまであと〇〇日]という文字に怯える日々……

◆勉強方法

とりあえず授業中に居眠りしてしまうという人は「授業中は寝ない」という努力を全力でしてください。ブラックコーヒー飲むとか、ミ○ティアやフ○スク食るとか、目薬を差すとか、自分の手の甲をつねる etc. とにかく授業中は起きましょ。黒板の前で先生が案外重要なこと話していたりしますよ。

○センター前まで

教科書の内容が終わるとだいたいの教科がセンター対策になってくると思います。ひたすらセンター形式の問題を解いて形式に慣れましょ。時間に慣れましょ。解き終わったら必ず復習して知識の補充をしてください。解説を読んで初めて知った部分はマーカーひきまくりましょ。後で見返したときにちゃんと覚えているか確認しやすいです。時間配分も重要です。センター試験では「時間があれば解けたのに…」という言い訳は通用しません。どの問題に何分かけるか、どういう順番で解いていくか、自分に合うものを探してみてください。この期間で知識を増やしてセンター形式にも慣れていくことによって点数をグーンと伸ばしていくことができますよ。1点でも多く得点ましょ！

○二次試験前まで

この学類の試験科目は英語、数学、選択科目の3科目です。選択科目については日本史について書きたいと思います。

○英語

筑波の英語はこんなの誰も解けないよ！ という長文の問題や異常に難しく長い英作文の問題は出てきません。時間があったら他の大学の入試問題もながめてみてください。英語苦手な人間なら発狂しそうな問題を出している大学もあります。筑波がいかにも良心的な問題を出しているかがわかりますよ☆……………だからこそちゃんと得点できないとほかの受験生と点差が開いちゃうのです。

長文はみんなできる問題を絶対に落とさないように単語や文法はしっかり覚え、確実に得点しましょう。英作文演習のポイントはなるべく和英辞典は使わないことです。自分が知っている単語で置き換えができないかということを考えながら解いていきましょう。そして書いた後は必ず先生に採点してもらって間違いを指摘してもらってください。自分の知らない英語の表現も教えてもらっちゃいましょう。

○数学

大問は6題ありますが実際解くのは2問だけです。「なんだーそしたら問題見て解きやすそうな問題選べばいいじゃん。」可能です、数III Cをやっているならですが。6題中数II Bまでの知識で解けるのは2題だけです。文系って大概数II Bまでしかやりませんよね？ つまり文系にはどの問題を解くかという選択肢は残念ながらないのです。しかも1題150点…。

問題自体は一見？ となってしまうものも多いですが落ち着いて考えれば解けないことはないので教科書に載っているような公式はしっかり使えるようになりましょう。わからなくてもとりあえず書いてみる。書きながら考え方が思いついて答えにたどり着けることもあります。たくさん問題演習をこなして、問題をみてどんな公式を使えばいいか、どのように解いていけばいいかわかるようになれば大丈夫です。

○日本史

ほとんどの問題が4つのキーワードを使って400字以内で問題に答える論述形式です。出題される内容は教科書の本文を使えば答えられるものが多いので、教科書の内容を一通り理解できていれば大丈夫だと思います。はじめは時間を気にせず教科書を見ながら解いていきましょう。問題文をよく読んで何について聞かれているのかを気にしながら書いていくと書き進めやすいです。慣れてきたら少しずつ教科書を見ずに解いていきましょう。厄介なのはときどき登場する史料を使った問題です。史料中の言葉に下線が引かれて、説明が求められることもあります。そのような問題には普段から教科書に載っている史料を読んでおくことが大切です。あとはその史料と時代背景を結びつけられるようになることと、初めて見る史料に対応できるようになれば日本史は乗り越えられます。

◆一言

最後に、遠くから筑波の受験を考えている人へ

二次試験の宿の予約はお早めに。

私は12月につくばセンター近くのホテルを予約したところ、「キャンセル待ちがぴったり100人目です」と言われました。

結果的にTXの隣駅の研究学園の近くのホテルに泊まりましたが……。

受験する！！ と決めたらなるべく早く宿の予約をすることをおすすめします。

入学お待ちしております(。ω。)

◆二次試験対策おまけ

○倫理

二次試験の倫理は400字の論文4問なので問いとしても、ある程度の量を書かせることができなければなりません。つまりセンターのような重箱の隅をつつく問いよりも教科書で1ページ使っているような重要な内容を出してきます。だから対策をするなら有名どころを狙って自分の言葉で説明できるようにしましょう。「この考えを批判的に述べよ」という問いが出たりするので、対になる考え方や似た考え方を合わせて書けるようにすることは必要です。あくまで論述のテストではなく倫理のテストなので、文章構成を考えるよりも問いに関係のあるキーワードをちりばめるほうが良いと思います。頑張ってください。

○世界史

筑波の世界史は過去問を解いているとなんとなく傾向が見えてきます。なのでまずは過去問をぺらぺら見てみましょう。もし夏の時点で「無理だ」と思ってもあきらめてはいけません。記述は書き慣れ、とにかく練習です。問題の傾向が似ている大学の過去問もときましましょう。センターは細かいところまでケアが必要ですが、筑波の世界史は「～について100年間の出来事を述べよ」、みたいな問題がさらっと出ます。キーワードを見て、何が解答に求められているのかを見極めるのも大切です。たまにですが、ほんとうに何を書けばいいかわからない問題が出てくることもありますのでご注意を（私しか感じてないのかもしれませんが）。

前期入試 (理系)

知識情報・図書館学類 前期入試合格 (理系)

◆受験のきっかけ

本をよく読む私への、母の薦めでした。

◆高校時代の過ごし方

高校1年生のときですが、文理選択の際にかなり悩むほどに私の得意教科は偏っていました。というより、化学は嫌いでそれ以外は好きでした。結局理系を選択しましたが、それも後で文転するときに、その反対よりは容易に出来ると思ったからです。高校は中高一貫で、部活も中高で同じでしたが部活に精を出したわけでもなく、このことを後で後悔しました。

私の学校では高校2年生で部活を引退する決まりで、高校3年生の初めから受験モードに入っていました。ですので、受験勉強と部活の両立については、あまり助言することはできません。ただ、行事には進んで参加するのがいいと思います。

勉強するのも、家だと遊んでしまうので基本的に放課後に学校に残ってやっていました。放課後に友人と買いに行くコンスूपが好きで、今思い返すとそのために勉強していた気がします。

あと、高校の時の友人は一生の友人です。大事にしましょう。

◆勉強方法

特に参考書などは買わずに学校から配られた参考書を使っていました。変に自分で参考書を買うよりは、先生の授業をしっかりと聞き、先生に質問したりする方がいいです。どうしても不安で何か参考書を買いたいときは、まず自分の弱点を見つけることが大事だと思います。自分の弱点を知った上で先生に相談しましょう。先生を上手く活用して下さい。

センター試験の対策としては、ずっとセンター模試や過去問を解いていました。センターの日本史などの暗記系は友人と問題を出し合うと覚えやすいと思います。

二次試験の対策としては、ひたすら赤本を解いていました。もともと高校が二次試験をメインに勉強していた学校だったので、二次試験の対策としてはこれで十分間に合いました。また数学を解く際は、時間をかけて一問一問じっくり取り組んでください。直ぐに答えを見ないようにしてください。本番では、わからない問題でもどうにかして答えを導き出そうとする姿勢が大事です。あと私は、受験の雰囲気慣れておくのと、滑り止めのために私立を受験していました。私立受験の対策のために時間を取られるのは痛いですが、受かっていれば心に余裕も出来て、リラックスしながら前期試験を受けられると思います。

◆一言

ずっと勉強しているのは精神的に疲れてくると思うので、上にも書きましたが、学校での行事には進んで参加して自分のガス抜きをしてあげるのも大事だと思います。

また受験のときはつくばを少し歩いてみるのもいいと思います。私はホテルで追い込みをしていましたが、ずっとと密室にいたためにあの閉鎖空間がトラウマになりかけました。ずっとはホテルにせず、駅近くにミスドやイオンなどがあるので、そこで少し休憩するのもいいでしょう。

◆受験のきっかけ / 高校時代の過ごし方

私が知識情報・図書館学類を志望したきっかけは、「文理融合型」の学部としてここを見つけたときでした。私は中等教育学校の出身でした。中等教育学校というのは、中学校3年間を前期課程、高校3年間を後期課程として、6年間一貫した教育を受ける学校です。私の学校では、小学校と同じように、中学1年生から高校3年生までを順に1年生から6年生と呼んでいました。高校受験をする必要がなかったため、3年生から4年生に進級するときも、進路について余裕をもって考える時期がありました。しかし、4年生になって文理選択を決定することになってからも、自分の興味があることが見つからず、自分は数学が不得意であるから、という安易な考えで文系を選択しました。5年生になってからも、未だに志望に悩んでいました。しかし、ある模試を受験したときに、配布された資料の中で、「文系と理系を両方備えた総合系の学部」、つまり「文理融合型」の学部の存在を知りました。その系統の中でも特に「情報系」に惹かれました。

2年生か3年生だったときに、職場体験として地元のIT関係の企業を訪問して、プログラミングを体験させていただいたことがありました。今にしてみると、「情報系」に惹かれたのは、このときの経験があったからだと思います。そこから自分で資料を使って「文理融合型」で「情報系」の学部を探しました。いくつか見つけた中で、特に目を惹かれたのが、ここ筑波大学の情報学群、知識情報・図書館学類でした。「筑波大学」という名前に目を惹かれたというのが大きかったと思います。テレビや新聞、ネット等の数々のメディアで、日々目にしないことはないほどの知名度を持っていましたし、大学のある茨城県つくば市は「研究学園都市」として、学生や研究者のために造られた町であるということを知って、大学と町が一体となったようなところでは、学生としてできることが多いのではないかと思います。実際に資料からも、学類の多さ、研究内容の多さ、福利厚生施設の多さ、知識情報・図書館学類のシラバスや就職状況を見て、ここに行きたい、と思いました。文系であっても、理系的な素養を身につけることができる、具体的には、情報や数学に関する基礎的な演習から、プログラミング演習を経て、システム構築などができるようになる、という点に非常に魅力を感じたことが、ここを志望した大きなきっかけでした。

◆勉強方法

中等教育学校の後期日程の過ごし方を簡単に説明すると、勉強はあまりしていませんでした。部活動を引退するまでは、勉強と言えば、課題や定期試験の勉強、模試の復習くらいしかしていませんでした。私はここを第1志望にしている、どうしても入りたかったため、推薦、前期、後期すべてをここに出願しました。いわゆる受験勉強を始めたのは、6年生の夏休みからだったと思います。具体的な勉強方法としては、赤本の他に、学校から今まで配布された問題集を解いていました。私は塾や家庭教師などに頼らずに勉強していたので、新たに参考書や問題集を買うということはほとんどありませんでした。秋に入ってから、模試の復習やセンター試験に向けた勉強、特に前者がほとんどでした。私は推薦、前期、後期をすべてここで受験したので、推薦に向けた勉強もしていました。推薦は小論文と面接があったので、先生から小論文の添削と、面接の指導を受けていました。推薦が終わってからは、センターに向けてひたすら勉強するようになりました。予備校の出したセンター試験練習問題と、校外模試の復習に時間を充てていたため、このときは筑波大学の受験に向けた勉強はしていませんでした。センター試験が終わっ

てからは、本格的に筑波大学の受験に向けた勉強を始めました。具体的には、赤本で過去問を解き、その傾向を確かめながら、今まで使って来た問題集を解いていました。私立大学受験もあったので、その勉強も少ししていました。数学、世界史に関しては、先生から添削をしてもらっていました。前期が終わってからは、後期に向けて勉強を始めました。後期は小論文のみだったので、赤本で問題を解き、それを添削してもらっていました。そしてようやく、後期で合格し、ここに入学することができました。

今にしてみると、推薦にも前期にも落ちてしまったのは、当然対策に問題があったからです。全体を通して、その日思い立ったことをやるという計画性のない勉強をしていたのが問題だったと思います。推薦については、自分の興味のあるプログラミングのこと以外あまり調べず、特に重要な図書館情報学について何も調べなかったのが失敗した原因だと思います。推薦を目指す人は、とにかく自分の興味のある分野、将来やりたいことなどを明確に持つと良いと思います。学類の概要、実績などを熟読しながら、自分の興味のあることとは別に少し気になった単語などを見つけて、それについてまた調べると、新たに興味が湧いて、より見聞が広がるかもしれません。前期については、特に私は数学が苦手であったのに、過去問の傾向を見てから、ひとつか二つの分野以外あまり勉強しなかったため、本番では自分が重点を置いて勉強しなかった分野が出て、ほとんど手が出ずに失敗してしまいました。前期に向けて勉強するには、特に苦手な教科に対して、分野を絞るよりも、広く深く、最終学年の春頃から、計画を立てて、ゆっくりと時間をかけて取り組んでいくべきだと思います。加えて、あまり参考書や問題集は新しくたくさん買い揃えない方が良いと思います。買ったことで満足して、手を出さないまま試験当日を迎える、ということがよくあるそうです。私の場合は、英単語帳を1冊買っただけで、その1冊を使い込むようにしていました。できるだけ、学校の先生方が吟味して選んでくれた問題集を使いましょう。その問題集がどうしても自分の勉強方法や計画に合わない、という場合に初めて買うとよいでしょう。後期については、とにかく諦めないことです。諦めないで、最後まで自分なりの受験勉強を維持していくことが大切です。私の場合は、前期不合格の報せを聞いてから1日は何もする気が起こらず、落胆していました。しかし、ここが第1志望であったので、推薦、前期で出せなかった成果を何としても出したい、と自らを奮い立たせて、最後まで諦めない気持ちを持ち続けました。当然、気持ちだけでなく、勉強もしました。その結果、合格することができました。

◆一言

これから受験勉強を始めるとい人も多いと思います。模試や本試がどんな結果になろうと、できるだけ気持ちを良い方にも悪い方にも揺らさないようにしてください。できるだけ自分で決めた勉強方法や計画を維持してください。苦しいとは思いますが、自分の志望する大学に入りたいという気持ちは、受験が終わるまで持ち続けてください。特に、私のように筑波大学を第1志望として、どうしても入りたいという気持ちがあれば、後期のことまでしっかりと考えて、最後まで諦めないで勉強を続けてください。前期に落ちて、後期で受かった私だからこそ、断言します。もう一度言います。後期のことまでしっかりと考えて、最後まで諦めないで勉強を続けてください。皆様のご健闘をお祈りしています！

生活体験記

「春日民ってどんな生活しているの？」

全然想像がつかないのではないのでしょうか。入学前はそんなものです。

春日での生活手段には以下の三つがあります。

- ・ 学生宿舎
- ・ アパート
- ・ 自宅通い（宅通）

そう聞いて、またこんな疑問も生まれるのではないのでしょうか。

「宿舎ってどんなところ？」

「アパートってどう選べば…」

「宅通って一日をどう過ごしてるのかな」

実際の春日民がどのように生活しているのか、みなさん気になるところでしょう。

ここからは、宿舎（追越・平砂地区、春日地区）、アパート、宅通のそれぞれで生活している1年次の人にその様子を書いていただきました。メリットやデメリット、一日の過ごし方などについて書かれています。普段春日民がどのような生活を送っているのかを知り、あなたが春日民になったときのかすがらいふ構想をどんどん膨らませてください。

平砂宿舎

こんにちは！

ここからは平砂改修棟（平砂7）について紹介したいと思います！

メリットとデメリット

○平砂改修棟のメリット

- ・近年改修されたばかりなので基本的にきれい！
- ・床はフローリング
- ・バス停が近い
- ・改修されてない棟に比べて湿気が少ない
- ・共用棟に食堂がある（味はまあまあ）

○平砂改修棟のデメリット

- ・階段の横が吹き抜けるようになっているため虫が入る
- ・防音性がない。（廊下での話し声は全て筒抜けです！）
- ・コンビニはちょっと遠い…
- ・ベッドが大きいので部屋の間取りに困る
- ・調理スペースが廊下にあるため、虫が多くて大変（1階は特に多い）

宿舎の設備紹介

各階に洋式トイレ（南北に2つずつ）あり。

洗濯機、乾燥機（共に1回100円）も南北にひとつずつ設置されています。

シャワールーム（10分/100円）は各階にひとつずつ設置。

調理スペースは各階に2カ所、廊下であり、扉などで区切られてなく、換気扇が設置されています。

共用棟には理髪店、食堂（今年からシダックスが運営）、アイデン（電気屋）、大浴場（1回170円、21回3400円で券売機制）が設置されています。

ちなみに、大浴場の利用可能時間は平日17:00～23:30（入浴は24:00まで）、土休日17:00～22:00（入浴は22:30まで）。

食堂の営業時間は平日8:00～9:00（朝食）、11:00～14:00（昼食）、17:30～20:30（夕食）、土休日11:00～14:00（昼食）となっています。

平砂民の1日の過ごし方（悪い例だからマネしないでね！）

平日（サークルなし）

- 7:30 起床。他の人に比べれば遅い方だと思います…笑
- 7:40 Twitter 見ながら朝食。大体前日の夜炊いたご飯を食べてます。
- 8:30 教室に到着。授業開始 10 分前なのに人が少ない…
- 8:40 授業開始。
- 11:25 2 限まで終わって昼食。多くの方が食堂を利用します。
- 12:15 3 限開始。ここからは睡魔との戦い…
- 18:00 6 限終了。もちろん日によって終わる時間は変わります。一番遅いときこの時間かな～
- 18:20 帰宅。とりあえず PC の電源を入れる。あとは課題やったり twitter やったり。
- 21:00 夕食を作り始める。
- 0:00 シャワー行ってそろそろ就寝かな…
- 1:00 就寝。次の日の午前に講義がなければもっと遅いです w

平日（サークル有り）

- 7:30 起床。朝ごはん食べます。
- 8:30 教室に着く。Twitter やったり。
- 8:40 1 限開始。
- 11:25 昼食。サークルは午後の講義がない曜日だけなのでゆったり食事。
- 12:15 サークルの活動場所へ。
- 18:00 サークル終わり。
- 18:15 帰宅。米炊いて課題やったり。
- 20:30 夕食。のんびり食べるご飯はおいしい。
- 0:00 シャワー浴びにシャワールームへ。100 円玉ないと面倒なことに…
- 1:00 就寝。明日起きられるかな…

休日

- 12:00 起きる。前日どれだけ夜更かししたかによって結構ぶれます（笑）。
- 12:10 朝食兼昼食。節約できた！ って思うと得した気分になる。
- 12:45 Twitter やったり友だちと遊びに行ったり。テスト前はさすがに無理だけど…
- 19:00 帰宅。夕食の準備。
- 20:00 夕食。
- 23:00 洗濯とか。週に 2 回はやらないと厳しいかな…
- 1:00 シャワー浴びに出る。まだ眠くないよ
- 2:30 布団入って携帯弄りながら寝落ち。

春日宿舎

ここからは春日宿舎についてお話しします。春日宿舎は今現在女子棟のみ、男子棟は改修中です（来年は改修されて綺麗になってるかも）。女子棟だけ言えば全体的に綺麗です！でも他の地区のように湿気がひどかったりするのではありません。カビをはやさない努力（除湿）が必要です。梅雨時期の除湿剤は必須！知り合いに部屋の湿気のおかげでスマホの端子が腐敗しちゃった人もいますから…。そして女子棟には医学・看護の子も住んでいます。

さて、まずは他の宿舎とは違う、春日宿舎ならではのメリット・デメリットをご紹介します。こちらです。

メリットとデメリット

○メリット

- ・春日キャンパス内に宿舎がある
 - 授業が春日キャンパスのときは徒歩5分で登校可。むしろ本気になれば5分もかからない（笑）そのため、寝坊者が多発するとかしないとかはここだけの話。
- ・お風呂が宿舎内にある＆お風呂代が共益費に含まれている（他の地区の宿舎では、宿舎内にはシャワーのみ、共用棟までいかないと湯船につかれせん…）
- ・つくばセンターに歩いていける距離にある。TXに乗って45分で秋葉原まで！

○デメリット

- ・春日にこもりがちになる
 - 春日以外の人たちとの交流ができない。アクティブになろう！
- ・周りにコンビニがない、あるけど歩いて行くには億劫な距離にある。
 - ほんとにちょっとした買い物が不便(; - ω -)a"
- ・第1エリアなどにある講義棟が遠い。
 - 自転車漕ぐのがおのずと速くなります。いいこと…ですよ？

と、まあこのような感じです。これらの問題点の対処法としてはいろいろなサークルに入ってみる、自転車を買って移動手段を増やしたりでしょうか。でもほんとに第1エリアより奥は遠いです…。よく言うと体力がつくし、悪く言うと疲れます。ほんとに。1年の頃は春日以外での授業も多いので、時計とにらめっこしながら自転車の安全運転を心掛ける日々です。

では、そんな私の1日の過ごし方をご紹介します。

一日の過ごし方

平日：移動がある日

- 7:00 起床。焦ってお弁当を作る。
- 8:00 授業前にプリントを印刷するために早めに宿舎を出る。
- 8:40 パソコンとにらめっこの授業開始
- 11:25 お昼休み。友だちとお弁当を食べる。
- 12:00 次の時間の体育のために体育・芸術エリアに移動
- 12:15 体育開始！ 体育は楽しいですよ☆
- 13:30 体育終了。次の時間は授業がないから粉クリ（後ろの用語集参照）で時間をつぶす
- 15:00 外国語センターに移動
- 15:15 英語授業開始！ この授業はネイティブの先生でその日一番の集中力を発揮
- 16:30 英語終わり！ 疲れた体を引きずって春日へ帰宅…
- 18:00 帰宅。ご飯食べて、お風呂入って、家事して、テレビ見て、思い出したかのよう
に予習をする
- 0:00 就寝。おやすみなさい…。

平日：移動がない日

- 7:00 起床。焦ってお弁当を作る（2回目）。
- 8:20 春日で授業だからゆーーーーーっくり宿舎を出る。
- 8:40 授業開始

↓ ずっと春日（笑）

- 15:00 授業終わり！ 火曜日だと火曜日（食材の安売り）にくりだす。卵 10 個で 78 円（` (。・ω・) ノ

↓ ご飯食べて、お風呂入って、家事して、テレビ見て、思い出したかのよう
に予習をする（2回目）

- 0:00 就寝。おやすみなさい…。

休日

- 9:00 起床。お弁当作らなくていい。わーい（っ ` ヴ ` ）っ
- 9:30 ベッドの上でごろごろし終わって、家事に取り掛かる。
平日サボっている分休日いっぱいやることが…
風呂掃除とかトイレ掃除なくてよかったと心から思う休日。
- 12:00 お掃除完了！ お昼ご飯は何にしよう…。
- 13:00 適当にお昼を済ませ、暇を持て余す。お買い物行こうかな。

↓ いろいろ暇を持て余した。

18:00 晩御飯作るぞー (`・▽・+´)

19:00 今日は湯船にお湯が張られる日だー！ お風呂ー！

↓ PCの前に張り付く。

22:00 やばい、予習してない (°Д°) 予習… (遠い目

0:30 予習をそれとなく済ませ、就寝。明日からまた1週間が始まる (〃 ^ ω ^)

私はサークルやってないのでわからないのですが、友だちにはサークルで帰りが遅くなる日がある子もいます。あくまで私のは怠惰な春日民の一例ですので (笑)。

また、宿舎生活で求められるのは「思いやり」です。よく言う、「自分がされて嫌なことは人にしない」を実践しましょう。そうすればお互いに快い宿舎生活ができます。

あと、これは余談ではありますが、大学周辺は街灯が少なく結構暗いです。夜道は十分注意しなければなりません。特に女子は夜にあまり外出しないほうがいいかも。それから、自転車の事故も多いようです。交通ルールは守りましょうね。

では、みなさまが春日民になるのをお待ちしております ((` (○ ・ ω ・) / ☆ ・ ° :: °

アパート

こんにちは。

今回はアパ民代表として春日地区におけるアパート生活を紹介したいと思います。

まず最初に、なぜ僕がつくばでの新生活でアパートを選んだかということと単純に筑波大学の学生の大多数が宿舍生活をすると思わなかったからです（笑）。僕は北海道出身で、その上田舎の地方に住んでいたので筑波大学に関する情報が少なく、自分の周りの友達が当たり前のようにアパートを探していたので僕もそのノリに乗じてアパートを探し、借りました。しかし、いざこっちに来てみてほとんどの学生が宿舍を選んでいることを知って大きな衝撃を受けました。よく1年生でアパート生活は恵まれているとか、お金持ちだなと言われますがそんなことはなく、ただの情報不足によるものです（笑）。北海道の高校の友だちと比べるとつくばの家賃は安いですが、具体的には大阪の大学に行った友だちは家賃4万5千円で、北海道の札幌の大学に行った友だちに至ってはマンションで家賃6万円です。ちなみに僕のアパートは春日2丁目で家賃3万4000円です。安く見えますよね（笑）。自分のアパート選びの調査によると、筑波大学周辺のアパートの家賃は低いもので2万円、高いもので6万円までありました。なので予算に合わせてさまざまな条件、価格帯のものがあり、目安としては3万5千円ぐらいで状態も広さもいい感じのところに住めると思います。僕は家賃3万ちょいという予算でアパートを探しました。

アパートの環境

僕のアパートの詳しいスペックを紹介したいと思います。場所は春日2丁目で春日キャンパスまで自転車で3分。広さは7畳とキッチンでトイレとシャワー別で洗濯機は外置きです。僕は出身が北海道で冬には雪が降るので洗濯機外置きというのは初めはカルチャーショックでした（笑）。トイレとシャワーが一緒の物件もありましたが、少し部屋が狭くなってもいいから、シャワーとトイレ別という条件は重視しました。トイレとシャワーが一緒は気持ち的に嫌ですからね。アパート自体は古い建物ですが、何年か前に和室から洋室にリフォームしてあるため意外ときれいです。その上前の人が出て僕が入るときに壁紙総張替えをしてもらえたのでラッキーでした。住所は春日2丁目で春日キャンパスにとっても近く、イーアス（という大きなショッピングモール）に行く通りなのでイーアスも近いです。春日2丁目は本学（用語集参照）と比べ南よりにあるので本学は少し遠いですが、そのかわりセンターに近く、イオンには数分で行くことができます。僕はイオンの火曜市で1週間分の食材を調達して毎日自炊をしています。自炊についてはあとで触れます。

こんな感じで家賃的にも広さ的にも立地的にも、僕はこのアパートに満足しています。いいアパートを探すコツは、自分の譲れない条件をひとつ決める、そしてここは譲ってもいい条件をひとつ決める。僕の場合はシャワー、トイレ別にこだわり、洗濯機外置きは妥協しました。そして、実際に部屋を見せてもらい、同じ家賃で他にいい物件はないかしっかりと探し、部屋の広さがある程度狭いかわりに安いところを選ぶといいと思います。というのも、ひとり暮らしでは広い部屋は必要ないですからね。実家の自分の部屋よりちょっと広いぐらいで充分だと思います。あとは工夫次第でどうにでもなります。住めば都です。

メリットとデメリット

○メリット

次にアパートのメリット、デメリットについて書いていきたいと思います。まず、メリット。それは部屋が広いことです（笑）。やっぱり宿舎と比べると広いです。なので、友だちを家に呼ぶことができ結構楽しいです。みんなでパスタを1600g食べたり、サッカーのゲームや三国無双をしたりして盛り上がっています。騒ぎすぎると隣人に迷惑がかかるので限度を考えて（笑）。こんな感じで数少ないアパ民として重宝されます。あとは自炊が捗ります。アパートには当然キッチンが付いているので最低限の調理器具と調味料があればすぐに始められます。僕は今、毎日自炊をしているので食費はかなり浮きます。まだ3回しか学食は利用したことがありません。チャーハンやオムライス、カレーは簡単につくることができるのでオススメです。大体1ヶ月の食費は1万円くらいです。お弁当を作るなど工夫次第で食費は浮きます。

○デメリット

次にデメリットは、部屋がすぐに汚れることです。部屋+キッチン+トイレ+風呂の掃除は結構大変なものです。掃除機を買ってないので定期的にコロコロをするのですが、髪の毛がたくさん落ちています。風呂なども放っておくと湿気ってすぐにかびてしまいます。なので、定期的に掃除をしなければなりません。ごみ捨ての日も決まっているので、計画的にゴミ出しをしなければ部屋がくさくなります。あとは宿舎に比べ家賃が高いことですかね（笑）。宿舎が安すぎるのもありますが。電気代、ガス代、水道代が家賃と別にかかり、だいたい1ヶ月1万円くらいかかります。1ヶ月にかかるお金は家賃とインフラ代+携帯代で5万くらいかかり、それに食費が加わり6万円くらいです。しかし、最初の1、2ヶ月は家具や調理器具、調味料、日用雑貨を買わなければならないのでかなりのお金が飛びます。中にはガスコンロや照明、エアコンがついていない物件もあるのでその点は事前に確認し、ない場合は自分で買わなければいけません。あんまりデメリットは感じないです。

一日の生活

アパート生活の1日を紹介したいと思います。サークルのある日として金曜日を、サークルのない日として水曜日を具体的に紹介します。

○サークルのある日（金曜日）

金曜日は1限、2限と春日キャンパスで解析Ⅰの授業があり、授業が終わると春日2丁目の自分のアパートに戻って昼ごはんを作ります。自転車で3分くらいの距離なのですぐに帰ることができます。いつもは昼ごはんを焼きそばやパスタを作ります。3限が空いているときはお好み焼きを作ったりもします。だいたい一食当たり50円くらいなので学食で食べるよりもかなり安上がりです（笑）。そして、昼ごはんを食べてお腹一杯になったら3限に体育です。3限がある日は昼ごはんを食べたらすぐに家を出ます。春日2丁目から野球場までは10分くらいかかるので全力でこがないと間に合いません。春日キャンパスで授業があるときは授業開始の5分前に出れば間に合いますが、本学や外国語センター、野球場などに行くときには15分前に出ないとイケません。こういう時に春日2丁目だと不便さを感じます。体育が終わると4限は空いているので一旦アパートに帰ります。3限が終わってから5限が始まるまでに105分空いているので買い物に行ったり、課題をやったり、昼寝をしたりしています。雨の日は1回アパートに帰ると雨に濡れてしまうので、中央図書館などで自習をします。5限は英語の授業があるので外国語センターに行きます。だいたい自転車で10分くらいです。僕は5限が一番眠たい時間帯です（笑）けれども、先生が外国人なので寝ないようにと緊張感を持ちながら授業を受けています。この授業が終わると金

曜日の授業はすべて終了です。一旦アパートに帰って夜ごはんを食べてサークルに行きます。夜ごはんも毎日自炊をしていて、カレーやチャーハン、オムライス、野菜炒め、麻婆豆腐、ハンバーグなどを作ります。どれも低コストかつ簡単に作ることができるので1人暮らしの男子にはおすすめです。これも1食100円いかないのでは外食するよりもかなり安上がりです。サークルは硬式テニスの「picnic」に入っていて、6時頃に平砂宿舎の近くにあるテニスコートに向かいます。平砂宿舎の人にとっては目の前なのですが、春日からは少し離れているのでちょっと遠いです。毎週金曜日はナイターでの練習なので、そこから先輩の車で練習場まで向かいます。7時から9時まで練習し、その後にみんなでご飯を食べに行ったりします。アパートに帰るとシャワーを浴びて、課題をやってこんな感じで1日が終わります。

○サークルのない日（火曜日）

次にサークルのない火曜日。火曜日はフルコマ（1限～6限まで授業があること）で一日中春日キャンパスで情報の授業を受けています。長い時間パソコンの画面とにらめっこしているので目が疲れ、体力的にもきついです。自分の好きなことを専門的に学べるので非常に楽しいです。授業がすべて終わるとこの日はサークルがないので、家に帰って掃除をしたり、テレビを見たり、友達を家に呼んで遊んだりしています。春日キャンパスは立地的に本学から離れているので、コミュニティが閉鎖的になりがちですが、サークルに入ることで本学のほうに行く回数も増えるので色々なサークルに入ることをおすすめします。僕は硬式テニスサークル「picnic」の他に軟式野球同好会「JOKERS」、「TOJO- 軽音」、学園祭実行委員に入っています。たくさん入っているおかげで毎日が充実していて、とても楽しいです。

こんな感じでアパート生活を楽しんでいます。これからアパート生活を考えている人や、アパート生活ってどんな感じなの？ と思っている人の参考になれば嬉しいです。

自宅通学

はじめまして。

筑波大では宿舎に住む「宿舎民」が圧倒的な割合を占めていますが、中には自宅から通う「宅通」もマイノリティではありますが、いるのであります。その距離は様々で、県外から通ってきている人も…。自分は県内（しかも隣の市）ですが、宅通ならではのメリット・デメリットはみんな共通！ ということでさっそくご紹介していきます。

メリットとデメリット

○メリット

- ・食事や家事全般のことを心配しなくても良い（という人はかなり多めの様子）
- ・地元の友だちと会いやすい
- ・規則正しい生活を送れる（朝寝坊しないというのもポイント）
- ・帰宅途中に寄り道できる（電車やバスの待ち時間に、というケースが多い）
- ・病気になったときに看病してくれる人がいる

○デメリット

- ・終電、終バスが早い（特にバスは 21 時台から 22 時台で終わる感じです）
- ・交通費と通学時間がやたらかかる
- ・荷物が多くなる
- ・つくばに拠点がないので授業の空き時間がやたら暇
- ・一人暮らしのスキルが身に付かない
- ・突発的な外食など、急な予定を入れにくい

○デメリットの解決策

上に挙げたデメリット以外にも「あ、これも宅通の苦痛じゃん…」というものがいくつかあったりしますが、対処法も存在します！ ここでは知っておくと役立つ対処法をいくつかお教えします。

- ・終電、終バス

これにはホント苦労します…自分はバスと電車を使っての通学なので常に時間を見ていないと終バス逃してしまう、なんていうことも。新歓の時期や、その他飲み会（1年生にはあまり関係ないかな；）打ち上げ等も途中退席せざるを得なかったりします。

筑波には宿舎民はもちろん、アパートに住んでるアパ民もいますので、仲良くなっておくことをお勧めします。意外に早く泊めてくれる人が多いです！（私も一度友だちのアパートに泊めてもらいました）

- ・荷物

宿舎民は一旦宿舎に帰って荷物を取ってくる、という技が使えますが、宅通はそうはいきません。そこでロッカーを有効利用しましょう！ 春日の学生支援室に申請すればロッカーが借りられますよ。ただ、1年は本学での授業がメインなので多少使いづらいかもしれませんが…

・空き時間

これも同じく一旦宿舎に帰るといふ技が使えない宅通にとっては極めて暇な時間を過ごすことになります。そんなときは図書館や食堂を利用すると良いですよ。2学、3学、体芸にある「粉とクリーム」もお勧めです。春日なら、掲示室の隣にあるフリースペースや図情図書館、いざとなったらシンデレラ階段（用語集を参照して下さい！）下で時間をつぶしましょう！

宅通の大まかな一日の流れ

さて、そんな宅通の人間が日ごろどのような生活を送っているのか、ここで少しだけ紹介します。

月曜（本学での授業、バイトなし）

- 5:30 起床
- 6:35 家を出る
- 7:40 春日キャンパス到着（チャリで本学へ）
- 8:40 1限開始
 - * 月曜は1限から5限まで授業が入っているので、暇な時間はあまりない
- 16:30 5限終了（チャリで春日へ）
- 17:20 つくばセンターからバス乗車（その後電車に乗り換え）
- 18:30 帰宅
 - * ご飯食べたり、課題やったり色々
- 1:00 就寝

火曜（春日での授業、バイトあり）

- 6:00 起床
- 7:05 家を出る（電車は07:22）
 - * 平日のこの時間帯は高校生が大量にいるので、電車の中で窒息死しかけます
- 8:20 春日キャンパス到着（7A205へ）
- 8:40 1限開始（2コマ続きの情報基礎が始まります）
- 11:25 授業が終わり、昼休み
 - * 食堂でお昼を買うもよし、お弁当持参でもよし、ラウンジでカップ麺を買うもよし
- 11:40 昼食後、持参したPCを手にフリースペースへ。課題をやる
- 12:15 3限開始（2コマ続きの知識情報概論）
- 15:00 授業終了。つくばセンターへ向かう
- 17:00 帰宅。バイトへ行く準備をする
 - * ちなみに塾講師をやっているので、ここからはスーツでの行動
- 18:50 バイト先到着。授業準備
- 22:00 バイト終了、帰路に就く
- 22:15 帰宅
 - * ご飯食べたり風呂入ったり色々

- 23:30 情報基礎実習の課題開始
*なぜか提出前になって慌てて徹夜でやるという始末…今回は極端な例を紹介
- 3:30 一段落し、就寝

水木金を飛ばして土曜（休日で予定なし）

- 7:30 起床
*ご飯食べたり、着替えたり
- 8:30 家の家事を手伝い終わって、布団にもぐり込む
- 9:30 パソコンをつけて Twitter 見たりする
- 11:00 「課題やんなきゃ！」とふと気づく
- 12:00 気付いたらもうお昼
- 13:00 パソコンに向かい、レポートとにらめっこしたりノートまとめてみたり
- 14:00 眠くなる
- 15:00 ベッドの上で目が覚める（いつの間に…）
- 16:00 本を引っ張り出して読み始める
- 19:00 晩ご飯
- 20:00 課題を少しやる
- 20:30 風呂入ったり、歯磨いたり
- 21:00 ついっっかり Twitter を見てる（課題も同時進行だったりする）
- 0:00 眠くなる
*「明日もあるし！」と気楽に考え、睡眠を優先。就寝

最後に

こうして見ると何だか自堕落な生活を送っているな、と感じないこともないですが（特に週末）、宅通も捨てたもんじゃないですとだけ言っておきます！ たしかに時間の制約が大きかったり自由が利かなかったりはしますが、それでもクラ代や全代会、サークルに入って有意義に生活している宅通も多いです。要は、限られた時間をいかに有効活用できるかが重要です！ これは宅通のみならず、ほかの人にも言えることですよー。筑波時間（通常とは異なる、筑波大生のずれた時間感覚）に流されない宅通はきっと時間の使い方がうまくなるはずですよ。

自分は4年間宅通の予定なので、入学して宅通になったらぜひお話ししましょう！

筑波大学のサークル

■ どんなサークルがあるの？

筑波大学のサークルは、そのほとんどが

- ・文化系サークル連合会 (<http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~bunsa/>)
- ・体育会 (<http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~taikukai/>)
- ・芸術系サークル連合会 (<http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~geisa/>)
- ・一般団体
- ・公認学生組織

のいずれかに属しています。逆にいうと、このいずれかに属していない団体はちょっと怪しいところもあるので気をつけましょう（すべてがそうとはいええないかもしれませんが…）。どんなサークルがあるか、ですが、ちょっとありすぎてここには書ききれません…（´・ω・`）

とにかく、なんでもできるのが筑波大学。運動にも芸術にも文学にも福祉にも、なんにでもチャレンジできます！

■ 学業やバイトとの両立

サークルをやっていたら他のことってできないんじゃないの…？ と不安になっている皆さんも大丈夫、両立は可能です。筆者もサークルもバイトもしていますが、単位は取っています。ただし、サークルには毎日のようにがちがちに活動しているところから、週1日のペースでゆるーく活動しているところまで様々です。バイトも同様。何を優先するのかをしっかりと決めて、サークルも選びましょう。両立できるかできないかは自分次第かもしれません。大学生ですからね。

■ 「部」と「サークル」の違い

サークルを探していると、「〇〇部」というものとそうでないものがあることに気が付きます。これはあくまでも筆者のイメージなのですが、部のつくものはわりとがちでやっているイメージ。そうでない団体はちょっとゆるめなイメージ。あくまでもイメージ。部がつかなくても結構ハードに活動している団体ももちろんあります。ちなみに、医学〇〇部という団体が多く見受けられますが、これは医学群以外の学生も参加できます。新歓が豪華なので一度は行ってみたいかも。

■ 新歓について

春になると、多くのサークルが新入生歓迎会、略して新歓を行います。新入生にとってはタダ飯のチャンス！（笑）4月の食費が恐ろしく安くなる、なんてことが普通に起こります。もちろん、自分の入りたいサークルの雰囲気を知る大事な機会です。ただし、新歓に便乗して怪しい団体から声がかかることもあります。自分の身は自分で守りましょう。

2012年度の新歓の様子や参加団体は筑波大学新入生歓迎祭のページ

(<http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~shinkan/>)

から確認することができます。気になった人はチェックしてみてください。

アルバイトについて

■ バイト時期

この項目を見ているみなさんの大多数はきっと「大学生活に慣れてから…」と考えているのではないのでしょうか？はっきり言います。「甘い」です。まだいい、テストが始まるから。サークルの合宿があるから。新学期の授業に慣れてから。とどんどん先延ばしにしてしまった結果何もしない、なんてことになりかねません。また、夏休みに始める人も多いようですが、学生にとって一番の稼ぎ時である長期休暇に研修期間という時給が低い状態で迎えることも損をしているように思えます。

大学生活もバイトをしている、していないによって大きく様相を変えてきます。正直いって、一年の一学期なんでもものは、バイトをしていないと、暇で暇で仕方ありません（やどかり祭期間を除く）。自分は4月なんてずっとゲームやネットで遊んでいました。逆に、バイトをしていることで課題提出まで効率的に課題に取り組むことが身に着いたりします（土日バイトなため「土日にまとめてやろう」などと言い訳できないので）。

また、大学生活に慣れるように、バイトも慣れてしまえばどうということはありません。むしろ楽しくなってくるときもあります。楽しいことをやってお金をもらえるなんて最高じゃないですか？

■ バイトの種類

・飲食店（キッチン）

汚い（生ゴミ、油污れ等）、きつい（混雑時）、などいろいろ悪条件が多いです。しかし、まかないを食べることができたりします。時給は800円～900円ぐらいが相場。若干高めです。

・飲食店（ホール）

キッチンと違い接客業なので人とのコミュニケーション能力を求められます。キッチンと比べ汚物処理にかりだされることは少なめです（客と直に接するので）。まかないも食べられます。キッチンより若干時給が低いところが多いです。割と競争率が高く、ホールで希望を出したのにキッチンしかあいておらず入れられるなんてことも。

・家庭教師、塾講師

大学生が行う一般的なバイトの中ではトップクラスの時給を誇ります。しかしその実、報告日誌作成、授業準備等、時給が発生しない業務時間が多かったりするので他の一般的なバイトとたいして差がなくなってしまうりもします。また営業形式上毎週決まった時間に拘束されるため、急に予定が入ったときなど対応力が低いのがネックです。

・ショップ販売員

時給もそこそこ、服も汚れることはまずないです。まかないがないため働くたびに昼食代がかさむということがデメリットかもしれません。時給も飲食店と遜色ないところが多く割とお勧めのバイトです。

■ 給料について

いかなる理由でバイトをしているかによって異なりますが、土、日6時間勤務でだいたい2～3万というところが目安となるでしょうか。週5、6勤すれば10万越えも夢ではないです。

しかし、大事なことを忘れないでください。優先すべきはお金ではなく、己の健康や、学業であります。このことを忘れずみなさんも楽しいバイト生活を送ってもらいたいと思います。

（とある先輩の感想です）

かすがトーク

編集委員たちがファミレスで座談会してみました。

春日民の、春日民による、春日民を目指すみなさんへ！

それぞれの受験の経験やイマの生活の仕方（宿舎やアパートの実情）をぬるっと赤裸々にお届けする、やる気はそこそこな座談会です！（`・ω・´）

■ 参加者・χ・

Aさん（`・ω・´）	「アクティブなひきこもり」	- 北海道出身，知識前期
Bさん（*´▽`*）	「イナイレ大好き絵描き」	- 栃木出身，知識推薦
Cくん _(: 3)∠)_	「情報系音屋」	- 東京出身，メ創 AC
Dくん (=ω=.)	「毎日カレーどこでも Mac」	- 埼玉出身，メ創後期
Eさん (^●▽●^)√	「温泉大好きな物書き」	- 東京出身，知識 AC
Fさん (*´ω`*)	「雑食系眼鏡」	- 愛媛出身，知識前期
Gさん (=・ω・=)	「情報学群にいる機械音痴」	- 岩手出身，知識前期
Hさん (=OwO=)	「無駄に伸びた身長」	- 茨城出身，知識前期

■ かすがとーく開始・χ・

A（`・ω・´）「さて、ではとりあえず皆さん原稿お疲れ様でしたー！ 乾杯！」

c _(: 3)∠)_ 「ごはん美味しい」

E (^●▽●^)√ 「元々演劇科行きたくて、でも演劇じゃ食ってけないぞってなって。哲学をやるか司書教諭やるか、ってなってー。哲学をやるのなら、それより司書教諭になって暇な時間に小説書いて1億円…（笑）」

B (*´▽`*) 「夢がビッグだな！」

E (^●▽●^)√ 「で、結構…推薦はいいなって思ってたんだけど…勉強できないから（笑）ACだと評定がいらねえのね。で、筆記試験もいらねえから受けようと思ったんですね」

H (=OwO=) 「え、面接だけ？」

E (^●▽●^)√ 「面接と提出書類。大体今ぐらいから夏休み入るまでにいろいろ資料を整えて、夏は毎日PCの前で塾に行く時間までは缶詰で書き続けて、って感じかな」

c _(: 3)∠)_ 「塾には行ってたの？」

E (^●▽●^)√ 「うん、行ってた行ってた。でも塾に

■ 受験の話・χ・

A（`・ω・´）「じゃあ、とりあえずAC・推薦・前期・後期の受験のお話をしよう」

H (=OwO=) 「前期、手え挙げて（A・F・G・H）後期は？（D）ACが2人？（C・E）で、推薦は…ぼっちだね（B）」

A（`・ω・´）「じゃあまずはACから…」

E (^●▽●^)√ 「そうですねー、私がAC始めたのは去年の今頃（6月中旬）。遅いんだよね」

B (*´▽`*) 「あ、確かに遅いかも」

入ったのは高3の4月から。芸術コースに入ってたんだけど、そのままコース変えて小論文指導、みたいな

c_(: 3」△)_「知識のACって倍率どれぐらいなの？」

E(^●▽●^)_「20人受けて今年は4人受かったかな。ACは受けようと思う人が少ないんだよね、夏が潰れるから」

B(*'▽`*)「ハイリスクだもんねー」

D(=ω=)「書類って、確かCくんは70ページ書いたんでしょ？」

c_(: 3」△)_「うん。たくさん書いた」

E(^●▽●^)_「あ、私も本文は70ページぐらいで40ぐらい参考資料つけたかな」

c_(: 3」△)_「ACって面白くて、僕は70ページぐらい書いたけど、情報科学類の人とかは4ページぐらいのペラペラで出した人もいるらしくて…中身じゃないのかな、って(笑)」

H(=OwO=)「ちなみにどんなこと書かされるの？」

E(^●▽●^)_「自己アピールをする！ 私の場合はアドミッション・ポリシーをすごく読んで、それに合う人ですよー、ってめっちゃアピールしようと思って。最初演劇の話で自己紹介して、次に文芸部作った話書いて…それは小説で書いたんだけどね。3本目は図書館司書やりたいからこういう図書館はどうでしょうかー、みたいな提案書いて70ページ3万字。だけど私以外の子は結構『こういう研究してきました！』みたいな書いてたっぽい。今までこういう賞を受賞しました、とか、資格持ってます、とか。みんな研究やって、こういうのがあるから大学でも研究させて下さい、っていうのが大体セオリーだと思う」

H(=OwO=)「ってことはじゃあEさんが結構マイノリティー…」

E(^●▽●^)_「そうだねー、マイノリティーなACの中でもマイノリティー(笑)」

H(=OwO=)「Cさんはどうなんすか」

c_(: 3」△)_「僕は音楽をやってて、でも音楽じゃ飯食えねえってなって」

みんな「あ、やっぱそうなるんだ！(笑)」

c_(: 3」△)_「飯食えないって思ったから一般大学でネームバリューを稼ぎたくて、勉強はやだったんでACにしました。で、ACは夏ぐらいに受けようと思って、前半はプログラム書いて後半はレポート書きました。メ創は『コンテンツを作るためのソフトを作ろう』みたいな学類だから、今のソフトは使う人の気持ちが考えられてないことがあまりにも多いってようなことを書いて…あとは、ソフトを使える人が作るべきだって言うようなことを書いて、入れて下さいって(笑) 他も書いたけどね」

A(`・ω・´)「なるほどー、じゃあ推薦の話お願いしまーす。受けようと思った動機から実際どういう風に動いたかを」

B(*'▽`*)「私ね、高校2、3年で大学説明会来たんだけど、1年の時から先生に『筑波の知識どうだ？』って言われてて、PCも興味あるし図書館関係も興味あったしでやりたいことが固まってなくて。だから知識には興味あったんだけど、大学説明会で話を聞いて、『めっちゃ楽しそうやん』ってなって。ACほど深いことやってないけど、でも習い事とか校外活動とかはやってたからできれば推薦を視野に入れたいかなあって。まあ、ぶっちゃけ学力もちょっと危なかったからできたら勉強しないで楽しんで入りたいなーって(笑)」

A(`・ω・´)「私は推薦も受けたよ。あ、推薦の問題ってさ普通に英語の学力測ってるよね」

B(*'▽`*)「課題文が英語と日本語で2つあって、それについて設問が3つずつぐらいあって…大体は訳せとか要約しろとか自分の意見を述べよとか」

H(=OwO=)「推薦は赤本とかってある？」

A(`・ω・´)「筑波はあるよ、文系・理系・推薦って感じで」

E(^●▽●^)_「私、面接めっちゃ楽しかったー」

c_(: 3」△)_「ACでも終わった時に『これは受かっただろ』っていう感じがしたんだよね(笑)」

B(*'▽`*)「ああ、私も手ごたえ感じたわー」

E(^●▽●^)_「前の方がどんよりしてたから不安だったんだけど、自分の時はそうでもなくて」

H(=OwO=)「やっば、そういうのって自分が書いた書類とかの内容に依るんじゃない？ 内容がしっかりしてないと」

c_(: 3) Δ_「先生たちもその書類見て、『こいつはこういうことがしたいんだな』ってわかるわけだから」

H(=OwO=)「よし前期行こう、前期。ちなみに理系は？ …Fちゃんしかいない、そしてメ創の前期がいねえ (笑)」

A(・ω・´)「確かメ創は前期って英語と数学だけだよな？」

c_(: 3) Δ_「どうなんすか」

H(=OwO=)「確かそうだよ、メ創は英語と数学だけ」

B(*´∇`*)「かすがらいふ情報でセンターの方が比率が高いって見た気がする」

D(=ω=.)「2次に関しては理科いらなくて書いてあったよ」

A(・ω・´)「知識は3教科で、しかも社会科目は120分1600字で死ぬから (笑) 社会科目に関しては全部記述だから、大問4つあって各400字論述」

H(=OwO=)「内容把握してれば書けるんだけど、『400字書かせてもらえるだけありがたいと思え』って言われたことある。実は短くまとめる方が難しいんだよね」

A(・ω・´)「世界史だと、北大とかは出題傾向が昔から筑波大と似てるから見ると良いよね」

H(=OwO=)「他の大学の過去問も見た方が絶対良い。でも、意外に筑波って何年か前の過去問が指定語句変えて出される、みたいなこともあるから地歴の過去問に関しては遡れるだけ遡った方が良いと思う」

G(=・ω・=)「理科は？」

F(*´ω`*)「全然記憶にないんだけど、赤本しかやってない (笑) 赤本だけやって『ふーん』って感じだった」

A(・ω・´)「数学は前半60分で自分の解けるところ解ききっちゃって暇だった (笑)」

H(=OwO=)「私、数学時間余らなかったよー。入試の直前に日本史捨てて数学に命かけてたから (笑)」

A(・ω・´)「II Bってさ、特にBはずっと数列が出てて時々ベクトルが出てたんだけど、今年まさかのベクトル出ちゃったんだよね (笑) だからみんな数列来るかなーって思いながらもベクトルもちょっとやっとなないと危ないっていう」

G(=・ω・=)「要はどっちもやりなさいよ、ってね」

H(=OwO=)「筑波の数学はそんなに難しいわけじゃないから。基本ができて、あとはそれを使えるかどうか……あとはいかに柔軟な発想力を持つかってとこかな」

D(=ω=.)「でもそれって難関校全てに言えることでは？ 発想力って」

H(=OwO=)「確かに……まあ、最初はできなくても、二次前になると少なくとも途中までは解けるようになるから」

A(・ω・´)「文系はII Bしか選べないから、それ大事だよな」

F(*´ω`*)「理系はIII Cまでやってるから、簡単そうなのを選んで解いたよ」

B(*´∇`*)「うわぁ」

H(=OwO=)「英語に関しては、筑波大よりも上のレベルの問題を解いとくと、実際に筑波の問題解いたときに『あ、簡単じゃん』ってなるよ」

c_(: 3) Δ_「じゃあ後期は？ 原稿に書いてない話を…」

D(=ω=.)「書く量が多くてね…試験はA3用紙が8枚来て、そのうち1枚が原稿用紙で。しかも下書き用紙と一緒に来るから合計16枚になって…学類名も長いから書くのに苦労した (笑)」

B(*´∇`*)「大変だああ」

D(=ω=.)「で、問題内容は3題あって…今年はフリー変換について英語で書いてあって、英文を読んで誘導に従って計算したり和訳したり。あと日本語の文章で確率についてだったんだけど、計算は普通に高校1年でもできる感じかな。200～300字で書

けってというのが3題くらいあって…あとは積分の計算で2、3枚使って良いいという指示だった」

H(=OwO=)「小論が、普通の小論とはちょっと違うよね。知識の小論文は他のいわゆる文章を書かせる小論とは違う」

A(`・ω・´)「知識を持ってる上で解くのか、文章から推察して解くのかちょっと曖昧なものがあるよね」

F(*´ω`*)「とりあえず受験勉強頑張るしかないよね。前期・後期組は受験勉強頑張るしかないし、推薦は評定平均伸ばす努力する必要があるし、ACは……」

c_(: 3] Δ)_「ACは狙うもんじゃないっす、運よく入るもんです。てか、色々やってた人がやるべきであって、ACのためにやるのはやめよう」

H(=OwO=)「そうかもね、じゃあ受験に関してはそんな感じ？」

A(`・ω・´)「じゃあ生活の方の話に移ろうか」

■ かすが生活・χ・

G(=・ω・=)「まずは宿舎のお話しよう」

H(=OwO=)「春日宿舎どんな感じ？」

E(^●▽●^)^「階によって多少特色あるけど、みんな仲良しだよー」

B(*´▽`*)「創成と知識と看護と医学しかいないからね、知ってる人が多い」

A(`・ω・´)「追越、平砂は他学群、他学類の人と同じ棟だもんね」

B(*´▽`*)「あまり接点のない学類とも知り合えるね」

A(`・ω・´)「でも春日宿舎の女子棟のご近所付き合いはすごいよね」

F(*´ω`*)「みんなで補食室でわいわいご飯食べたね」

G(=・ω・=)「ご飯食べるのさびしくないよね」

B(*´▽`*)「掃除も共用部分は業者さんがやってくれるし」

E(^●▽●^)^「ほんと楽だよー」

A(`・ω・´)「狭いのを除けば宿舎は結構最強だよ」

E(^●▽●^)^「そろそろアパートの話も聞こうか」

H(=OwO=)「部屋の広さってどれくらい？」

c_(: 3] Δ)_「うちは8畳かな、アパートが古いかから広くても家賃がそうでもない」

B(*´▽`*)「いいなー」

c_(: 3] Δ)_「でも掃除が大変かな…どうやって掃除したらいいのか分からないところあるし。排水溝とか水回りはこまめに掃除しなきゃいけないし。でも宿舎と違ってキーボードとかスピーカーとかでかい機材置けるからいいかな」

E(^●▽●^)^「光熱費かかるんじゃない？」

c_(: 3] Δ)_「うん、まあ…この間パソコンつけっぱなしにして電気代1万いった」

みんな「[[[[[[ああ…]]]]]]」

E(^●▽●^)^「でもアパ民の家ってみんなが集まれるからいいよね」

c_(: 3] Δ)_「宿舎だと、男女で一緒には無理だからね」

B(*´▽`*)「お互いに異性の棟に入っちゃいけないもんね」

A(`・ω・´)「じゃあ、宅通はどんな感じ？」

H(=OwO=)「家事は親の手伝いするくらいしかないかなー。やれって言われたらやる程度」

E(^●▽●^)^「楽だねー」

H(=OwO=)「でも通学時間がね、なんで車で30分の距離を交通機関を使って2時間で来てるんだろう私。しかも通学時間帯は高校生と一緒にあったり窒息しかけたり(苦笑)」

c_(: 3] Δ)_「免許取ろうか(笑)」

H(=OwO=)「今年とるよ！ あんまり遅いと終電なくなつて親に迎えを頼まなきゃいけないから…」

F(*'ω`*)「それは大変だね…」

H(=OwO=)「でも帰ったらご飯はあるし、寝床はあるし、お風呂は好きな時間に入れるし」

A(`・ω・´)「宿舎はお風呂の時間決まってるからねー」

H(=OwO=)「でも朝早いのはつらいな。そんなにバスや電車の本数多くないから」

E(^●▽●^)√「ほんとね！山の手線なんて3分に1本来るのに！」

みんな「[[[[いや、それ都心だから(非都心勢)]]]]」

B(*'▽`*)「まじ都心怖いわ」

みんな「[[[[ねー (非都心勢)]]]]」

A(`・ω・´)「じゃあ、春日のいいところどこでしょう」

送りましょう！」

c_(: 3)_「最後まで無理やりじゃん(笑)」

A(`・ω・´)「しーっ!!! 言わなきゃばれない!!!」

みんな「[[[[[[[[[[では、みなさんに会える日を待ってま——す]]]]]]]]」

かすがとーくおしまい。

■ かすがのいいところ・X・

E(^●▽●^)√「急に変わったね、話」

A(`・ω・´)「いいの、いいの」

B(*'▽`*)「春日のいいところ…他の筑波のキャンパスに比べて穏やかなとこかな」

c_(: 3)_「静かだよね」

A(`・ω・´)「ツイッターはうるさいけどね(笑)」

H(=OwO=)「春日以外の人から見たら春日民のツイッターはすごいらしいよ」

F(*'ω`*)「すごって(笑)」

A(`・ω・´)「ま、でも春日いいとこ！」

E(^●▽●^)√「無理やりまとめた！」

D(=ω=.)「いや、実際いいところじゃない」

G(=・ω・=)「そうだね、これを見てる人にも春日好きになってほしいね」

A(`・ω・´)「と、言うわけで創成あるいは知識を受験する皆さん、頑張ってください」

B(*'▽`*)「私たちと一緒に楽しいかすがらいふを

筑波大学の1年間

筑波大学の一年間の行事を簡単に紹介します。ここでは来年以降に始まる2学期制の行事予定を紹介します。

※来年から従来の3学期制から2学期制に移行するため、不確定な要素も多く、このようにならないかもしれません。

4月	<p>○宿舎入居 宿舎は春日、追越、平砂、一の矢の各地区ごとに入居日が決まっています。 入居日のイオンには臨時バスが出るほど。</p> <p>○入学式・新入生歓迎祭・新入生オリエンテーション 各学類やサークルで新歓祭が行われます。色々な事に参加すると友だちが増えるよ！</p>
5月	<p>○春季スポーツ・デー 春季と秋季の年2回行われる行事。有志参加で、様々な球技やミニゲーム、スポーツ写真コンテスト等も行われます。運営しているのはスポーツ・デー委員会です。</p> <p>○やどかり祭 大学側非公認のお祭り。宿舎祭ともいいます。1年生がお祭り出していることが多いです。 これを通して恋の季節がやってくるとか来ないとか。まあ人によりけりですね。</p>
8月上旬頃	<p>○春学期期末試験 一年生最初の山場。これを越えれば夏休みがやってくる！と思えばなんとかなる。多分。</p>
8月～9月	<p>○夏季休業</p>
10月	<p>○全学停電 安全点検のため、毎年、全学規模で停電があります。 もちろん宿舎も真っ暗です。冷蔵庫…orz</p> <p>○秋季スポーツ・デー 春季スポーツ・デーとほぼ同じイベントです。多少種目が変わります。</p>
11月	<p>○学園祭 通称「雙峰祭（そうほうさい）」。3日間にわたって行われる、大規模なお祭り。筑波大の広大なキャンパス中で模擬店などが出店される。お店を出しているのはサークルだったりクラスだったりゼミだったり。運営しているのは筑波大学学園祭実行委員会（通称は実委）の現役生やOBやOG。</p>
12月末～1月上旬	<p>○冬季休業</p>
1月	<p>○秋学期期末試験</p>
2～3月	<p>○春季休業、卒業式</p>

学費、奨学金、宿舎費

ここでは、平成 24 年度の授業料・奨学金・宿舎費について簡単に説明します。

■ 授業料

入学金	282,000 円
授業料（第 1 期）	267,900 円
（第 2 期）	267,900 円
（年間授業料合計）	535,800 円
☆ 1 年次納入額	817,800 円

つまり、1 年次には入学金+授業料で約 80 万前後の納入、2 年次以降は年間約 50 万ずつの納入ということです。ちなみに条件が揃えば授業料および入学金を免除する制度があります。

■ 奨学金（日本学生支援機構）

毎年 4 月中旬に、日本学生支援機構申込説明会が開かれます。そのときに配布される必要資料に必要事項を記入し、学校に提出することで奨学金の申請は終了します。

実は書類配布から締切までの期間はとても短く、その上保護者に記入してもらわなければならない箇所もあるので、奨学金を申請しようと思っている人は早めに奨学金について詳しく調べると良いかと思います。

※詳しくは日本学生支援機構の公式 Web ページ (<http://www.jasso.go.jp/>) をご覧ください。

■ 宿舎費（平成 24 年度）

○春日宿舎

寄宿料	8,000 円× 12
共益費	6,840 円× 12
（基本使用料	14,840 円× 12）
保証金	30,000 円

○平砂・追越宿舎（一般）

寄宿料	8,000 円× 12
共益費	6,640 円× 12
（基本使用料	14,640 円× 12）
保証金	30,000 円

※追越宿舎の一部は異なります

宿舎ではガス代・水道代は無料ですが、別途電気代は発生します。しかし、いくら電気を酷使しようとも月に 1,000 円を超えることは滅多にないというほど安いです。

筑波大学附属図書館

筑波大学は附属図書館も充実しています。附属図書館は全部で5館あり、東京にある大塚図書館を除いた4館は筑波キャンパス内にあります。それぞれの図書館を紹介します。

中央図書館

第一エリアと第二エリアの間にある、筑波大学内で一番大きな図書館。5階建て。

図書だけでなく雑誌や映像資料も豊富。スタディスペースもあり、授業と授業の合間に勉強する人も多い。基本図書館にはパソコンもあるので、パソコンを使わなければならないレポートも図書館にこもって仕上げることができる。

ちなみに入り口にスターバックスがあり、お腹をすかせた学生たちをいつも誘惑している。

図情図書館

春日エリア内にある図書館。2階建て。図書館学に関する図書や雑誌を多く所蔵している。小規模だがこもりやすい。ラーニングcommonsというパソコンやスクリーンなどが備えられているスペースがあり、そこではチューターと呼ばれる上級生や大学院生たちがレポートなどの相談に乗ってくれる。春日の誇れるもののひとつだったりする。



▲中央図書館の様子

体芸図書館

体芸エリアにある図書館。春日の学生は体育の後にたまに利用したりする人もいる。他の図書館よりデザイン性のある造りをしている（気がする）ので、見学に行くと面白いと思う。

医学図書館

医学エリアにある図書館。残念ながら筆者は行ったことがありません。行ったことがある人に聞いたところ、勉強している人が多いので、モチベーションが上がるそう。他の図書館とは開いている時間が違ったりすることがある。

大塚図書館

東京キャンパスにある図書館。学類生のうちはあまり利用することはないと思われる。



春日エリアの施設

春日エリアには様々な施設があります。そんな春日エリアの施設を一部紹介します。

食堂

カレーやうどんの他に日替わり定食などがあります。価格は300～500円くらい。

本学の食堂よりは混んでいないと思います。営業時間も他の食堂より短いのでいろんな意味でレアかも！

図書館

講義棟内にあります。図書館学に関する本などがたくさんおいてあります。児童書や絵本などもあります。小規模ですが、これを書いている者にとっては居心地の良い図書館です。

情報メディアユニオン

春日エリアの中で、多分一番綺麗な建物。中にはメディア系の様々な設備が揃っているらしいです。知識情報・図書館学類生にはあんまり縁がない場所。情報メディア創成学類生は一年生のうちからここで講義がある。講演会が開かれていたりもします。

<http://www.kc.tsukuba.ac.jp/lecture.html>

体育館

図情バレー部や図情バスケット部が使用しています。が、はっきりいってしまうと春日民はあんまり利用しないかも。

ラウンジ

食堂のとなりにあります。

パンやカップラーメンなどの自動販売機が置いてあり、24時間開放されています。学生の強い味方です。

書籍部

教科書、雑誌や文房具などを販売しています。全て定価の1割引きです。

実は春日の書籍部だけ漫画が置いてあるんです。もちろん1割引きです。

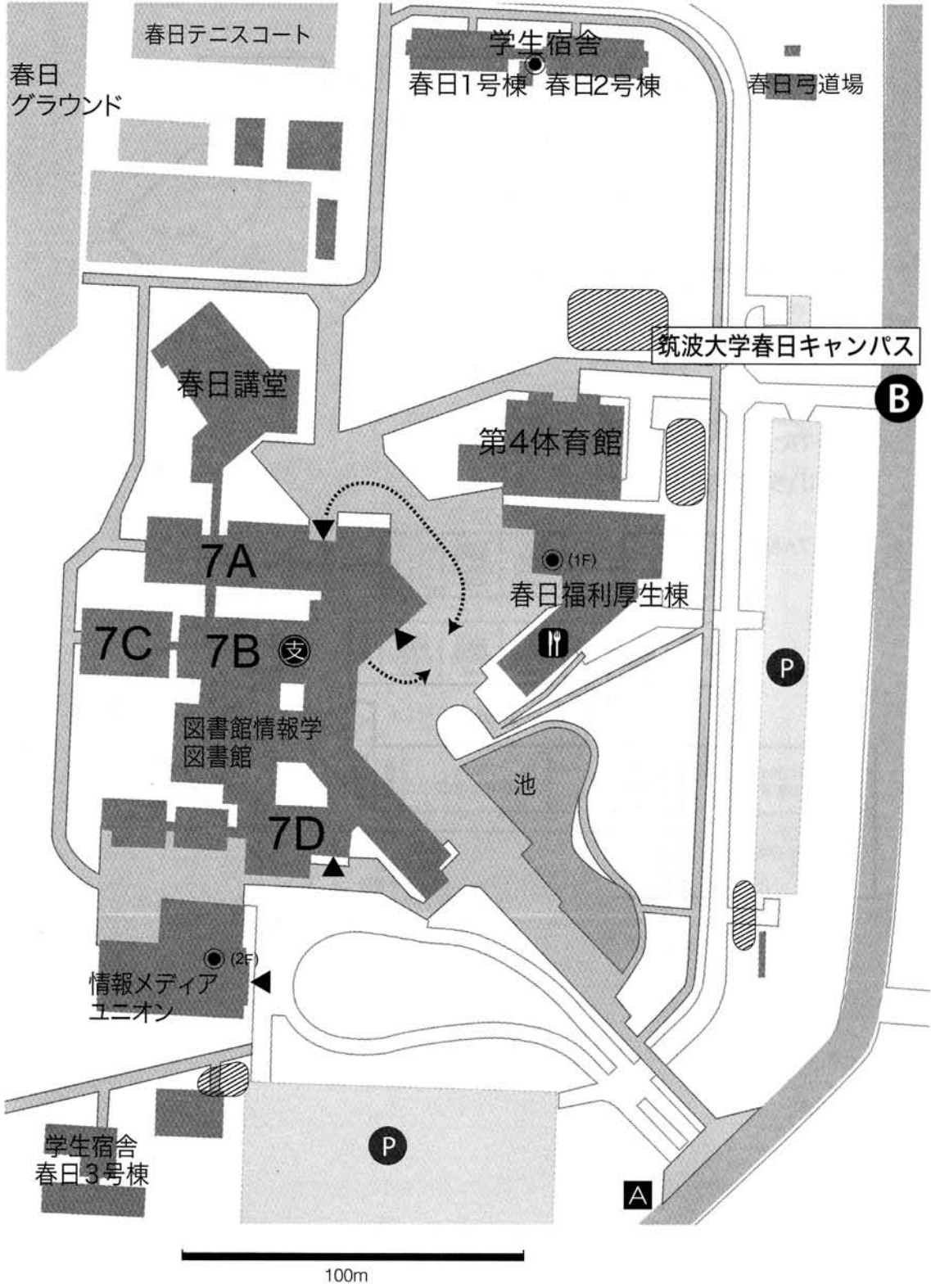
フリースペースA

平日の9:00～21:00まで開く部屋。会議や勉強会などに自由に使えます。じつはBもあります。こちらは講義棟の中にあります。

春日エリア

筑波山方面
Mt. tsukuba

▼ 出入口 Entrance
 ● 自動販売機 Vending machine
 駐輪場 a bicycle parking lot
▶ 避難経路 an evacuation route



▲地図 (筑波大学キャンパスマップより)

用語集

あ行

- ◆天久保 【あまくぼ】
地名。筑波大生が多く生活している。
- ◆アパ民 【あばみん】
アパートに住んでいる人。
- ◆1学・2学・3学 【いちがく・にがく・さんがく】
それぞれ第1エリア、第2エリア、第3エリアの通称。学群・学類再編前のナンバー学群の名残。
- ◆一の矢 【いちのや】
地名。または、一の矢宿舎。春日の人にはあまりなじみがない。団地のように広い。猫が人懐こい。
- ◆エクストリーム移動 【えくすとリーむいどう】
春日と本学の間を15分（休み時間）で移動すること。遥かなる旅路…
- ◆追越 【おいこし】
追越宿舎。今年は春日宿舎2号棟が改修のため、知識情報・図書館学類と情報メディア創成学類の男子が大勢入居した。

か行

- ◆学内バス 【がくないばす】
正式名称、学内循環バス。ループ（ら行参照）を走る。筑波大生は年間4,200円で乗り放題。時間通りに来ないことが多い。
- ◆春日 【かすが】
1. つくば市内の地名。2. 春日エリア（春日キャンパス）（かすキャン）。3. 情報メディア創成学類と知識情報・図書館学類の総称。
- ◆春日食堂 【春日食堂】
春日エリア内にある食堂。通称カス食。味は日進月歩。ぜひお試しあれ。
- ◆クラ代 【くらだい】
クラス代表者会議。春日地区では、情報メディア創成学類と知識情報・図書館学類とで合同で春日地区クラス代表者会議として、春日エリア内のあれこれを改善するため、日々活動している。

- ◆芸専 【げいせん】
芸術専門学群の略称。ここの友だちができるかと自慢できる。
- ◆粉クリ 【こなくり】
体芸エリア・2学・3学に存在するパン屋。美味。朝にはバイクングをやっている。

さ行

- ◆散歩 【さんぽ】
入学式前に春日から本学の前まで見学をしに行くこと。新入生歓迎委員会の企画である。やるかどうかはその年の委員次第。宅通の人はこのことを知らずに入学してくることが多いので、入学前はweb等で情報を得ておこう。
- ◆実習室 【じっしゅうしつ】
パソコンが沢山置いてある教室。課題をやったり、娯楽のためにパソコンを拝借しにきたり、その使用目的はさまざま。
- ◆宿舎民 【しゅくしゃみん】
宿舎に住んでいる人のこと。詳しくは生活編で！
- ◆シンデレラ階段 【しんでれらかいだん】
1階と2階とをつなぐ、大きな階段。その形状からシンデレラ階段と名がついた。待ち合わせによく使われる。王子様は…心の中に。
- ◆全代会 【ぜんたいかい】
全学学類・専門学群代表者会議の略称。通称Z（ぜっと）。生徒会の化け物のようなイメージ（あくまでもイメージ）。この人たちのお陰で筑波大生は充実した生活が送れている（はず）。
- ◆雙峰祭 【そうほうさい】
10月頃に3日間にわたって行われる、筑波大学の学園祭。実行委員は学実委と呼ばれる。1日では回りきれないほど規模が大きい。

た行

- ◆体専【たいせん】
体育専門学群の略称。ここの友だちができると羨望のまなざしで見られる。
- ◆宅通【たくつう】
自宅から大学へ通ってくる人の通称。詳しくは生活編で。
- ◆知識【ちしき】
知識情報・図書館学類の略称。図情と言われることもある（図書館情報専門学群の名残）。
- ◆Twitter【ついったー】
春日民の大事な情報ツール。ツイ廃、ふぁぼ、RT、TL、規制という言葉が常識となっていく日常。春日は筑波内でもツイッター普及率がすごい。先生方もやってらっしゃいます。また、知識情報・図書館学類の非公式のアカウントもありますのでご参照ください。
- ◆つくばっく
帰省先からつくばに戻ってくること。
- ◆TX【ていーえっくす】
つくばエクスプレスの通称。秋葉原まで最速45分。宅通の中で利用する人もいる。
- ◆図情図書館【とじょうとしょかん】
図書館情報学図書館の略称。同じく筑波大学附属図書館として、中央図書館、医学図書館、体芸図書館などが存在する。勉強したり昼寝したり、使い方は人それぞれ。

な行

- ◆7A205【ななえーにーまるご】
春日エリア内で最も大きな教室。知識情報・図書館学類では1年生の間はここで授業を受けることが多い。

は行

- ◆平砂【ひらすな】
平砂宿舎の通称。グランドスラムと呼ばれる部屋は色んな意味で有名。
- ◆ペデ【ぺで】
ペDESTリアンデッキの略称。筑波大学の中を縦にまっすぐ通る。自転車と歩行者が通る。本学（二つ下の項目参照）への行き来するときによく使う。

- ◆ほけかん【ほーかん】
健康管理センターの略称。学生は基本的に無料で診察を受けられる。
- ◆本学【ほんがく】
第1、2、3エリア等の通称。春日かエリアから自転車で約15分。1年生だと授業だけでかなりの時間を過ごす。

ま行

- ◆マジック【まじっく】
行事等で苦勞を共にした男女がカップルになったりすること。「やど祭マジック」、「クラ代マジック」、「雙峰祭マジック」などがある。詳しくは入ってから先輩に聞くと良い。
- ◆メ創【めそう】
情報メディア創成学類の略称。創成と呼ぶ人もいる。

や行

- ◆やどかり祭【やどかりさい】
入学して初めての大きな行事。宿舎祭とも言う。主に1年生を中心に出店したり御輿を作ったりする。今年は我ら情報学群の御輿が人気投票2位に入賞しました！（ドヤ）ミスコン、もとい「ゆかコン」なるものが開催される。

ら行

- ◆ラーニングコモンズ【らあにんぐこもんず】
通称LC。図情図書館の中に存在する。院や、学類の先輩方（ラーニングコモンジャー）が、課題の相談などにのってくれたりする。パソコンなども置いてある。
- ◆ラウンジ【らうんじ】
春日食堂横にある24時間自由に使えるスペース。パンやカップラーメン等の販売機がある、学生の強い味方。
- ◆リア充【りあじゅう】
リアルが充実している人（広義リア充）、もしくは彼女彼女がいる人（狭義リア充）のこと。対義語は非リア。
- ◆ループ【るうぷ】
学内バスが通る道路のこと。けっして舗装は綺麗ではないが、ペデは坂道が多いので自転車だとこちらの道を好んで通る人が沢山いる。雨の日は水が溜まりやすいので水没に要注意。

奥付

2012年度 かすがらいふ夏号 (kasuga life - Vol. mid summer 2012)

編集委員

執筆者（敬称略）

特別寄稿

山本幹雄先生（情報メディア創成学類 学類長）
長谷川秀彦先生（知識情報・図書館学類 学類長）

Special Thanks

情報メディア創成学類の教職員の皆様
知識情報・図書館学類の教職員の皆様
図書館情報エリア支援室の皆様
情報メディア創成学類クラス代表者会議
知識情報・図書館学類クラス代表者会議
その他、ご協力いただいたすべての皆様

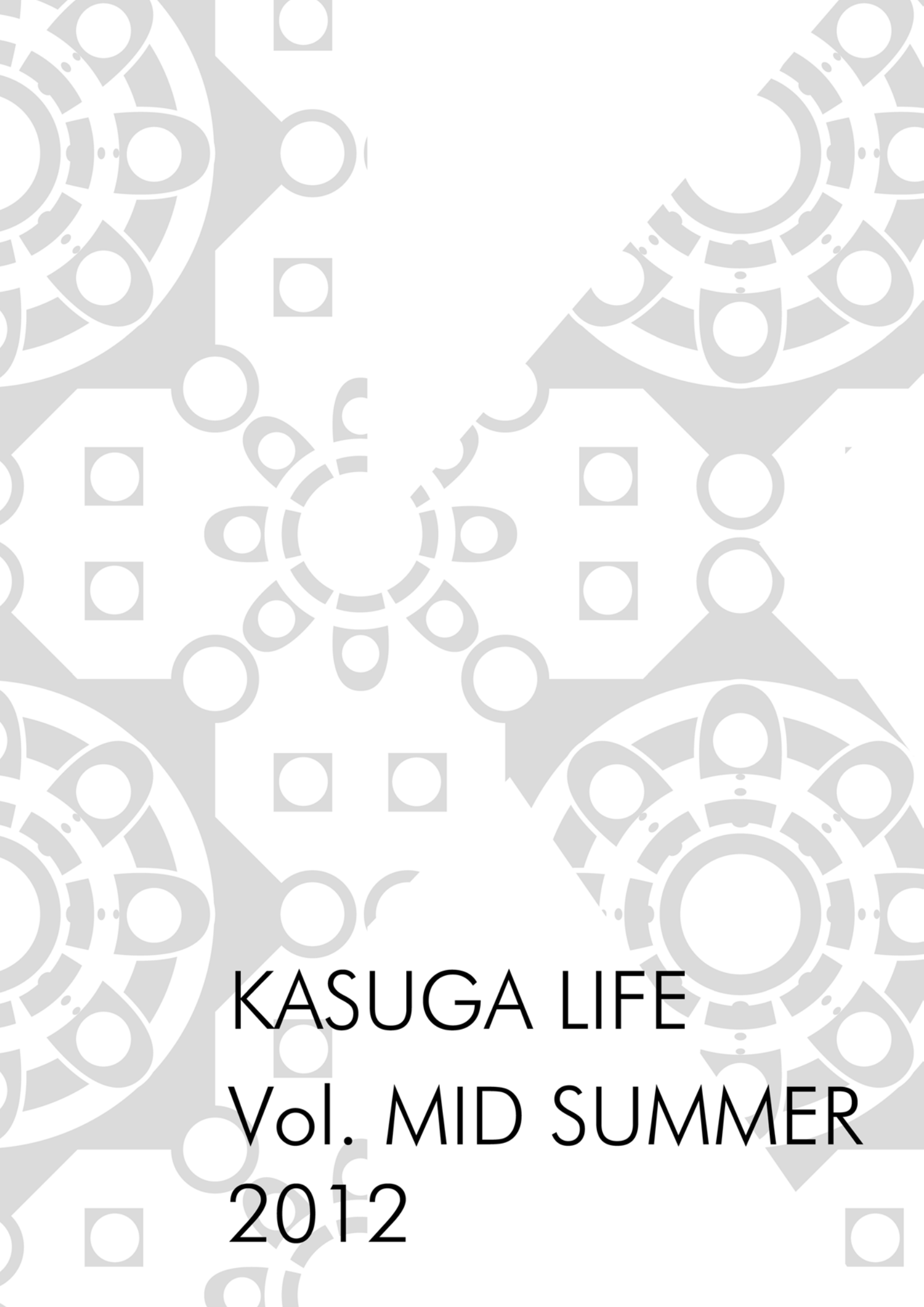
印刷

春日フリースペース印刷室 輪転機
2012年7月22日

さまざまな方に助けられ、やっとの思いで出来上がったこの夏号が皆さんの手に渡ったことをとても喜ばしく思います。あなたにとって必要な情報はこの中にあったでしょうか。情報メディア創成学類、知識情報・図書館学類について知っていただけたでしょうか。この『かすがらいふ』が、みなさんのお役にたてますように。

2012.7 かすがらいふ編集委員会

なお、この冊子に関してのご質問、ご意見、ご感想があれば
kl.editing.12@gmail.com（かすがらいふ編集委員会）まで、お気軽にご連絡ください。



KASUGA LIFE
Vol. MID SUMMER
2012